



高文連

第 13 号

山口県高等学校文化連盟

島文連

第 13 号

も く じ

あいさつ	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告	2
第23回山口県高等学校総合文化祭の記録	
総合開会式	15
(音楽関係4部門)	
器楽・管弦楽部門	19
合唱部門	20
吹奏楽部門	21
マーチングバンド・パトントワリング部門	22
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門)	23
(展示関係部門)	24
美術・工芸部門	27
書道部門	28
写真部門	29
囲碁部門	30
演劇部門	31
放送部門	32
将棋部門	33
第25回全国高等学校総合文化祭の記録	34
器楽・管弦楽部門	36
合唱部門	37
吹奏楽部門	38
マーチングバンド・パトントワリング部門	39
日本音楽部門	40
美術・工芸部門	41
書道部門	42
写真部門	43
囲碁部門	44
演劇部門	45
放送部門	46
将棋部門	47
自主事業	48

参考資料

平成13年度山口県高等学校文化連盟＜事業報告・会計決算書＞	53
平成14年度山口県高等学校文化連盟＜事業計画・会計予算書＞	55
山口県高等学校文化連盟規約・諸規定（会計、事務局、表彰、旅費支給基準）	57
平成13・14年度山口県高等学校文化連盟役員一覧	62
全国高文連の歌	64

ごあいさつ



山口県高等学校文化連盟

会 長 西 田 昇

高校生の芸術・文化の祭典である第23回山口県高等学校総合文化祭は、平成13年6月15日「熱き心 創る夢 いざ21世紀へ」をテーマに掲げ、宇部市において盛大に開幕されました。

この総合開会式並びに音楽四部門発表会、第52回山口県高等学校連合音楽会を皮切りに、県内各地で芸術・文化の祭典12部門が多く的高校生、地域の皆様方の参加を得て活発に展開され、大きな成果をあげることができました。

また、福岡県で開催された第25回全国高等学校総合文化祭では各部門へ県内延べ35校から316名が参加し各部門で活躍しました。今年は、山口県では初めて華陵高等学校舞台芸術部が、全国高等学校総合文化祭優秀校（4校）に選出され、国立劇場で開催された全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演で、一年間磨き上げた演技を晴れの国立劇場で堂々と披露しました。山口県高等学校文化連盟にとりましても大きな喜びがあります。県総文・全国総文ともに、これまで以上に高校生の感性豊かな主体性が前面に出ており、自らの創作活動を通して得た喜びや感動は高校生の皆さんにとってかけがえのない財産になったと思います。

今「心の教育」の必要性が見直されている中で、特に芸術文化や伝統文化を通じて豊かな心を育てる教育が重視されています。芸術文化は個性の発露であり、高校生が自由な芸術表現のできる教育的環境を整えることは、心の教育の充実に欠かせないものであります。

こうした中で新しい世紀を豊かな表現力と創造性で切り開いていく高校生の芸術文化活動を支える組織として、山口県高等学校文化連盟の果たす役割は大きなものがあり、今後ますますの躍進が期待されます。

終わりに、この一年間終始温かい御指導を賜りました山口県教育委員会に深甚なる謝意を表しますとともに、山口県高等学校文化連盟の活動に御指導、御協力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げ発刊の御挨拶といたします。

山口県高等学校文化連盟 各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 飯田 幸生
(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1. 平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏
 - ・ 6月15日(金)防府市公会堂
 - ・ 曲目「大地讃頌」
「ハレルヤ・コーラス」
 - ・ 指揮／古野義晴
 - ・ 参加出演／器楽・管弦楽部門 83名
2. 平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会
 - ・ 6月16日(土)、17日(日)
 - ・ 参加各校による弦楽、ギター、マンドリン、管弦楽の演奏
 - ・ 参加出演／7校 249名
3. 第24回全国高等学校総合文化祭福岡大会
 - ・ 8月5日(日)
 - ・ 飯塚市イイヅカコスモスコモン
 - ・ 山口県代表 下関南高等学校
 - ・ 曲目／歌劇「イーゴリ公」より
“ダッタン人の踊り”
4. 平成13年度山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会
 - ・ 12月10日(月)
 - 下関南高等学校会議室
 - 部会長以下出席者8名
- ・ 第21回器楽・管弦楽スプリングコンサート
(下関大会)、県総文、全総文、高文連表彰、役員改選などについて協議
5. 第21回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート
 - ・ 3月29日(金) 下関市文化会館
 - ・ 参加7校によるギター・マンドリン、管弦楽などの演奏



▲第23回山口県高等学校総合文化祭総合開会式 (宇部市渡辺翁記念会館)

合唱部門

理事長 有 富 美 子
(萩高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟、合唱部門に関して行われた今年度の行事を報告いたします。

1. 山口県高等学校合唱講習会

(開幕式典に備えての講習会)・6月3日(日)

- ・講師：山崎 勝(島根県合唱連盟副理事長、島根県立矢上高等学校教諭)
- ・内容：発声と曲作り
- ・曲目：“オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」”／“カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」”
- ・場所：宇部市文化会館 文化ホール
- ・参加者：11校 194名

発声を中心としたとても分かりやすいご指導をいただき、日々の練習に早速活用している学

校も多いこと
と思います。
今回得たもの
を元に平素の
活動がより楽
しく充実した
ものになるよ
う工夫したい
ものです。

2.

平成13年度
第23回山口県
高等学校
総合文化祭
開幕式典にお
いて慶祝演奏

・6月15日(金)

- ・山口県高等学校管弦楽団との合同演奏
- ・曲目：“オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」”／“カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」”

・山口県高等学校合唱団／12校 252名

今年は、昨年と同様、オラトリオ《メサイア》より「ハレルヤ・コーラス」、カンタータ《土の歌》より「大地讃頌」としました。日ごろ小人数で活動している生徒達にとって、この大合唱は貴重な経験となりました。

3. 平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

- ・6月16日(土)、17日(日)
- ・宇部市渡辺翁記念会館
- ・合唱部門出演者／12校 242名

4. 第25回全国高等学校総合文化祭

- ・8月7日(火)
- ・アクロス福岡シンフォニーホール
- ・山口県代表 野田学園高等学校合唱部
- ・曲目／「きょうの陽に」アポリネールの詩による四つの無伴奏合唱曲「白鳥」

NHK全国学校音楽コンクールの県大会が8月8日に開催されるため、プログラムを1番にさせていただいての出演でした。本当にお疲れさまでした。

5. 平成13年度山口県高等学校文化連盟合唱部会

- ・12月10日(月)・萩高等学校会議室
- ・出席者／部会長以下11名
- ・議題／県総文、全総文、高文連表彰等について

※各種コンクール

- ・JCA(全日本合唱連盟)コンクール

県大会 8月18日(土) 宇部市渡辺翁記念会館

中国大会 9月22日(土) 島根県民会館(松江)



吹奏楽部門

理事長 藤本博途
(岩国商業高等学校教諭)

平成13年度山口県高等学校文化連盟吹奏楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 県総文総合開会式

総合開会式は、『熱き心 創る夢 いざ21世紀へ』というテーマのもと、宇部西高等学校主管で平成13年6月15日（金）宇部市渡辺翁記念会館で盛大に開催されました。吹奏楽部門は、宇部地区高等学校合同吹奏楽団を編成し、山本博資先生指揮のもとで、式典並びに慶祝演奏に参加しました。

[式典] “ファンファーレ” “高文連の歌”
[慶祝演奏] “アマポーラ” “ジャンバラヤ” “式典のための行進曲『栄光をたたえて』”

2. 県総文音楽4部門発表会・連合音楽会

総合開会式翌日6月16日（土）から17日（日）の2日間、音楽4部門発表会・連合音楽会が同じく宇部市渡辺翁記念会館で開催されました。吹奏楽部門には51校1,655名の生徒が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。

3. 全総文福岡大会

全総文福岡大会は、8月6日（月）、7日（火）九州厚生年金会館グランドホールで開催され、山口県代表として岩国高等学校吹奏楽部（上田憲明先生指揮）が出場されました。ラヴェル作曲、天野正道編曲、舞踏詩『ラ・ヴァルス』を演奏披露され、美しいサウンドは大会出場全校の中でもトップクラスでした。

4. 高文連吹奏楽部会総会

本年度吹奏楽部会総会を12月12日（水）岩国商業高等学校で開催いたしました。県下50名の吹奏楽指導担当者が出席し、本年度事業報告や来年度事業計画、県総文の開催日程、全総文神奈川大会への参加推薦等の多くの協議事項に対して活発な意見交換がなされました。

5. 高文連吹奏楽部会研修会

部会総会終了後、部会研修会を開催いたしました。全日本吹奏楽コンクールや全日本マーチングフェスティバル等に何度も出場されている福岡県精華女子高等学校の藤重佳久先生を講師にお迎えし、バンド指導・運営法と題し講演していただきました。立ったまま身振り、手振りを交えて話される先生の熱弁に、あっという間に時間が過ぎ、大変有意義な会であったと思います。

マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 松浦 真実
(佐波高等学校教諭)

平成13年度は、加盟校も増え、この部門としての活動は例年通り無事に行われました。

さらに、山口きらら博開催にともない、マーチング・バトンという部門の特性を生かして、各校での「きらら博出演」がみられたことが、今年度の活動の特色であったように思います。

◎第23回山口県高等学校総合文化祭

・総合開会式

平成13年6月15日（金）

宇部市渡辺翁記念会館

慶祝演奏は、宇部女子高等学校によるステージドリルとバトントワリング

「明日があるさ」

「Can You Keep Secret」

・音楽4部門発表会

6月16・17日（土・日）

同会場

マーチングバンドとして山口県立佐波高等学校吹奏楽部・山口県鴻城高等学校吹奏楽部、バトントワリングには、三田尻女子高等学校と宇部女子高等学校バトントワリング部が出演。

◎第25回全国高等学校総合文化祭

・パレード部門

平成13年8月3日（金）

福岡市中パレード

山口県立佐波高等学校吹奏楽部のマーチング演奏「カーペンターズ de マーチング」・「モー娘 de マーチング」に合わせて宇部女子高等学校バトントワリング部と、三田尻女子高等学校バトントワリング部による、山口県合同チームとして出場。

・マーチングバンド・バトントワリング部門

平成13年8月5日（日）

福岡国際センター

マーチングバンドとして、山口県立佐波高等学校吹奏楽部が「真実の愛－トゥルー・ラブ」をテーマにしたマーチングを発表（曲目：ミュージカル『キャッツ』より「メモリー」・ミュージカル『ウエストサイドストーリー』より「マンボ」・「トゥナイト」）

バトントワリングとして、宇部女子高等学校バトントワリング部と三田尻女子高等学校が山口県合同チームとして、山口きらら博の「お元氣音頭」（サンバ調）に合わせて、山口県で開催中の山口きらら博のテーマ『生命きらめく未来へ』を、全国にアピールしました。



日本音楽部門

理事長 原田江里子
(大嶺高等学校教諭)

平成13年度山口県高文連日本音楽部門の活動状況を報告いたします。

1. 第23回山口県高等学校総合文化祭

総合開会式 慶祝演奏

6月15日(金)宇部市渡辺翁記念会館にて県立宇部西高等学校主管で総合開会式が盛大に行われました。

専門部紹介後の慶祝演奏では、県立厚狭高等学校箏曲部が「変奏曲さくらさくら」を演奏しました。日本を象徴する桜の美しさと可憐さが、雅やかに琴の音色により表現されていました。誰もが幼い頃に聴いたことのあるメロディだけに、よりいっそう琴の音色が聴衆の心にも響いたのではないのでしょうか。

現代音楽において、若い世代が日本伝統の楽器に触れることは非日常的なことです。同じ高校生の演奏を眼前にしたことで、伝統音楽を身近に感じてくれたことと思います。

2. 第23回県総文祭日本音楽・吟詠部門 発表大会

6月17日(日)下関市文化会館を会場に早稲高等学校主管の下、16校の参加により開催されました。日本音楽すなわち箏曲部門には14校、吟詠剣詩舞部門には2校が参加し、そして主管校早稲高校により郷土芸能である平家太鼓の発表となりました。吟詠剣仕舞部門は部門としては休部中ですが、中村女子高等学校の合吟、三田尻女子高等学校の仕舞の発表がありました。

各学校で箏曲部の部員確保が難しくなり、大会参加校の数も年々減っていつている現状は大

変残念なことです。しかし、大会に参加した生徒たちはいずれも日頃の練習の成果を十分に発揮してくれました。質の高い、聴く者を圧倒するレベルの演奏もあり、小人数で日々練習をしている箏曲部の生徒にとり、発表の場であると同時に勉強の場になったことと思います。箏曲を奏でる者同士が集う良い機会として、来年度から全員演奏に取り組む予定にしています。

3. 第25回全国高等学校総合文化祭 福岡大会

8月5日(日)から6日(月)まで、日本音楽部門は久留米市石橋文化ホールで三十三都道府県から四十九団体の参加により行われました。県代表の早稲高等学校の平家太鼓は、郷土芸能部門となるため、日本音楽部門への県参加はありませんでした。

箏曲の全国大会は発表会の面もありますが、コンクール的要素が強く、出場学校のレベルも非常に高いようです。また各学校の部員数も10人から20人程度と、音色の力強さにも圧倒され、まさしく全国大会ならではの感じました。



美術・工芸部門

理事長 平田博英
(岩国工業高等学校教諭)

平成13年度美術・工芸部門の主な活動の報告と、感想を述べます。

1. 県高等学校総合文化祭総合開会式慶祝展示

宇部市渡辺翁記念会館の2階ロビーに展示された、宇部地区の高等学校や養護学校9校22作品が、本年度の総合開会式に花を添えてくれました。昨年度と同様に、関係する各美術・工芸部の協力を得て、単独の作品展としてみても堂々たる内容で、美術・工芸部の存在を、訪れた人々にしっかりと印象づけてくれました。

しかし、展示会場が2階ということもあり、案内表示等設営の際には工夫を要しましたが、効果的であったか少々心配です。

2. 全国高等学校総合文化祭＜福岡大会＞

絵画3点、デザイン2点の作品が、県立福岡美術館の会場に、全国から出品された359点の作品と共に展示されました。会場狭しと並べられたその作品群に、本県からの出品作品も大いにその存在感を発揮していたように思います。別項の全国総文祭の記録に、出品者の声が掲載されていますので、そちらもご覧ください。

また、全国の美術・工芸部は、「絵画」「デザイン・彫刻」「工芸」という作品区分から「平面」「立体」という区分に変わります。立体作品に対しては、まだまだ全国的な水準には遠いようですが、新しい区分に十分対応できるようにと、少しずつ取り組む姿勢が出てきてます。

3. 県高等学校美術部合同展覧会

美術部生徒を対象とした研修の一環として、本年度から合同の展覧会を行うことになりました。今回は、下関地区での美術部合同作品展に便乗する形になり、案内が十分できなかったことや、作品制作の期間等で、各美術部には負担

を強いてしまう結果となりましたが、今後につなげる点においては、意味のある展覧会だったと思います。主に、小品を対象とした展覧会としても、面白い試みだと思います。

4. 県総合文化祭展示部門

『第23回山口県高総文祭の記録』を参考に。

5. 美術・工芸部連絡協議会

いかにして、県内美術・工芸部顧問の先生方全員を集め、この連絡協議会を終えることができるか。案内をつくる度に頭を抱えてしまう問題です。本年度は、山口芸術短期大学の協力を得て、芸術文化学科の紹介やCG制作の現場を覗くことが出来ました。毎回魅力的な内容をと考えますが、この会そのものの意味を考えれば、我々美術・工芸部顧問が、それぞれの部活動に関わる問題点を持ち寄り、意見交換をすることこそ、この会が持っている本当の意味があると思います。特に、専門外で顧問になっておられる先生方には、美術部運営に関して、様々な角度からアドバイスを受けることができますし、この機会をしっかりと利用していただくことを期待しています。しかし、実際には部活動の活動状況が低調であるが故に出席がままならない。我々としてはだからこそ思うのですが、各学校の理解をしっかりと得るためにも、美術・工芸部としてのさらなる活動が望まれます。



書道部門

理事長 有 富 由 美
(防府高等学校教諭)

平成13年度山口県高文連書道部門の主な活動について報告いたします。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

宇部市渡辺翁記念会館の2階スペースに展示コーナーを作り、宇部地区8校からの作品を展示しました。バラエティに富んだ個性的な作品が集まり、中味の濃い展示になりました。

2. 第3回高文連書道部生徒研修会 7/29(日)

第3回目となる本年度の生徒研修会は、これまでの会場だったセミナーパークから防府高校に移して行われました。内容は午前中に例年通りの条幅作品の制作、午後からは特大筆を使っての一字大書創作に取り組みました。参加者は県内8校から生徒18名、顧問10名でした。午前午後共に、それぞれ互いの作品を鑑賞し、批評しあう時間を設けましたが、それが何より次の活動への大きなステップとなるひとときだったと思います。また午後からの一字大書創作の時間はグループ活動とし、とにかく他校生との交流が難しい書道部会で、共に協力しあって作品を創ったことは、良き体験になったのではないのでしょうか。会場や内容、参加人数など検討課題は多くありますが、県内書道部員が、個々の学校では体験できない時間を共有することの意義を深く感じ、今後共この研修会がさらに発展していくことを期待してやみません。



3. 全国高等学校総合文化祭<福岡大会>

8/3～8/5

本年度の全総文祭は、お隣り福岡県で開催されました。開会式、作品展、交流会、講習会と例年通りの流れでしたが、本年は特に、これまで半日で行われていた交流会が一日がかりであ



り、高校生同士の交流が、大会の大きな柱となってい

たように感じました。作品展は、防府西、大津、野田学園、防府の4校が代表として出品しましたが、どれもじっくりと落ち着いて書き込まれた好感の持てる作品であったと思います。2日目の交流会は、九電記念体育館での席上揮豪でした。広い体育館は、張り詰めたような緊張感と若いエネルギーに包まれていました。今年度も、現地高校生の活躍振りが目立ち、また全国の仲間のエネルギーを肌で感じることのできる有意義な3日間でした。

4. 山口県教員書作展 8/17(金)～8/19(日)

高水高校岩見屋先生の担当で、シンフォニア岩国を会場に開催されました。出品者33名、総出品数50点、入場者数660名と、会場にも恵まれ、また岩見屋先生始め岩国地区の先生方のお骨折りで、すばらしい作品展となりました。近年会場の大型化に伴い、作品も大作を発表することが多くなり、さらに研鑽を積む必要性を感じているところです。

5. 山口県高等学校総合文化祭展示部門発表会 第23回県総文祭の記録に掲載しています。

写真部門

理事長 佃 幸憲
(光高等学校教諭)

平成13年度山口県高文連写真部門の主な活動は、次の事業でした。

1. 第23回山口県高等学校総合文化祭での慶祝展示

(総合開会式会場における前年度の全国大会
出品作品・県大会優秀作品などの展示)

今年度は、6月15日(金)に宇部市渡辺翁記念会館にて、総合開会式が開催され、これに伴い慶祝展示が、美術・工芸、書道、演劇、囲碁、将棋部門とともに2階のロビーにて、17日まで行われました。写真部門で展示された作品は、下記の全国大会に出品するものも含めた5点でした。

徳山高校 中野由香里 作

「呑み込む学校」(単・モノクロ)

徳山高校 溪 英俊 作

「アレグロ」(単・カラー)

宇部工業高校 和田 拓 作

「ねえ!!母さん」(単・モノクロ)

宇部工業高校 竹原貴士 作

「IT革命」(組・モノクロ)に替わり、

「休み時間」(単・モノクロ)

宇部高校 杉山美穂子 作

「CANDY SUGAR」(組・カラー)



2. 第25回全国高等学校総合文化祭

＜福岡大会＞

今年度は8月3日(金)から7日(火)まで、福岡市にある博多リバレイン7階の、福岡アジア美術館企画ギャラリーにて開催されました。3日には同会場にて開会式が、さらに講演会・表彰式・講評会が近くの明治生命ホールに場所を移して行われ、4日には、太宰府天満宮周辺に移動して撮影会が行われました。4日の夕刻より行われた理事会では、今年度の福岡大会についての協議・検討や、次年度の神奈川大会、福井大会に向けての計画について話し合いがもたれました。主な議題は、出品サイズの規定・デジタル写真の今後の取り扱いなどについてでした。当面、14年度の神奈川大会については、デジタル写真は出品を認めず銀塩に限られます。単写真は全紙サイズに統一し、組写真は最少でも全紙パネル大に、最大でも100cm×100cm以内のパネルに収めるという出品規定になります。組写真一点の中の写真枚数に制限はありません。13年度の福岡大会では、会場が狭かったため、組写真のサイズも全紙の大きさに統一されましたが、神奈川大会は規定が多少ゆるやかになりました。また、全国の常任理事会では、15年度の福井大会ではデジタル写真の出品も認めてみようという動きで話し合いは進んでおり、追って神奈川大会での理事会に諮られる予定です。昨今、カメラの販売台数もデジタル式のほうが上回ってきており、カメラ使用人口の増加に一役買っているようです。山口県大会においても門を閉ざすことなく、今後受け皿作りに努めていきたいと思っています。

福岡大会にて展示された様子で印象に残ったことは、写真が「分野別（モノクロ・カラーに分ける、さらにジャンル別に分ける）」にして分類展示されていたことでした。設営は大変だったようですが、多くの先生方から、同じようなテーマ・種類の写真が近くに展示してあり、比較しやすく生徒への教育効果があったのでは、と高い評価をうけていました。さらには、組写真も将来的には一つのジャンルとして、独立した展示にしてはどうかという案も検討されています。そのほかにも、優秀作品の下に講評を掲示して、その作品のよい点が入場者にもわかりやすく伝わるように工夫されており、いろいろな趣向を凝らした大会でした。また、4日の撮影会で撮り終えたフィルムを、5日までにスライドにして講習会に用いるという試みもなされました。このように、福岡大会初の試みが随所に見られ、大会運営にも感心しました。なお、優秀作品（出品数289点のうち、最優秀3点：モノクロ2・カラー1、優秀7点：モノクロ5・カラー2、奨励賞20点：モノクロ19・カラー1）に共通していたのは、撮影技術・仕上げの丁寧さ・構図などのすばらしさでした。さらには、その写真の題材の中に、高校生活の一コマが必ず入っているということでした。さらにその中から最優秀に選ばれたものは、学校の自転車置き場の様子を（モノクロ）、野球応援の様子を（カラー）あるいは制服姿の二人の女子高校生を（モノクロ）題材にして描いたもの3点でした。どれも皆、高校生でなければ思いつかないような作画意図があり、思いとエネルギーを感

じました。

そのほか、歴史的に古く・希少価値の高いカメラの陳列などもされ、今までにない試みで入場者の目を引いていました。今後、山口県大会にもこういった新しい演出手法を積極的に取り入れ、反映していけたらと思いました。

3. 平成13年度

第23回山口県高等学校総合文化祭下関大会

本誌第23回山口県高総文祭の記録に掲載しますので、そちらをご覧ください。

4. 写真部会主催の生徒撮影研修会（年1回）

今年度の県総文（展示部門）下関大会の最終日、1月20日（日）の午前中に、展示会場の隣にある長府庭園にて撮影研修会を催しました。詳細は、本誌の県総文祭の記録をご覧ください。

5. 写真部門 <顧問会議>（年1回）

今年度の写真部顧問会議は、理事長在籍の光高等学校において、12月3日（月）の13時より行われました。15名の顧問出席のもと、来たる1月の県総文祭の打ち合わせ、福岡大会の報告、今後の事業計画についての話し合いなどを行いました。県総文祭の主管である下関地区の高校からも、写真部門担当の先生お二人をお呼びして、具体的な運営方法などについて検討を行いました。出張旅費の捻出が難しい関係か、顧問の出席数が少ないのが気掛かりですが、出席された先生方の方からも各地区において、顧問会議の様子をお伝えいただけたらと思います。

囲碁部門

理 事 長 井 町 頼 信
(萩高等学校教諭)

囲碁は老若男女を問わず、誰でもが楽しみ、勝負もできる幅の広い、頭のスポーツです。平成13年の12月に山口県で行われた中国高校囲碁選手権大会では、島根県から車イスの選手が参加しました。彼は碁石も握れないほどの障害がありますが、細い棒なら握りしめることができます。そこでその棒で盤上を指示すると、そばにいる先生が代わりに石を置くのです。そして1回戦も2回戦も勝ち進んでいきました。

囲碁は大変なドラマが起きます。うまくいったことが先でつまづく遠因となることがあります。逆にどの道も絶望なのだが、相手がそのどちらを取るかで迷ったりしておかしな手を打って、こちらが勝つというようなこともあります。何が起きるか分からないところに碁の奥深い喜びがあります。



さて平成13年度の山口県高文連囲碁部門の主な活動は以下の通りです。

1. 山口県高校総合文化祭総合開会式慶祝展示

6月15日(金)～17日(日)まで宇部市渡辺翁記念会館で開催されました。囲碁部門の慶祝展示は静岡県で行われた全国高校総合文化祭に於ける囲碁大会と下関工業高等学校で行われた

山口県大会の対局風景の写真の半切2枚を掲げました。

2. 第25回全国高校総文祭囲碁部門第14回大会

平成13年8月6日(月)～7日(火)、福岡県春日市クローバープラザにて開催されました。団体戦は全国17位、男子個人戦は3位、女子個人戦は13位で好成績でした。

3. 第23回県高総文祭囲碁部門第13回大会

兼 第26回全国高校総文祭囲碁部門 第15回県予選大会

10月28日(日)に萩高校で開催され、参加人数は男女あわせて73名でした。全国大会の選抜と段級位認定を兼ねて、全員が4局の対局を行いました。

この日の結果から、個人戦男子1名、女子1名、団体戦(男女混成)3名の計5名は、平成14年8月9日(金)～10日(土)に神奈川県で開催される全国高校総文祭に出場します。

4. 県高文連囲碁部門研修会

平成14年2月10日(日)、山口市で開催されました。渡辺堅一プロによる全国大会出場者及び有段者クラスの者への対局指導を行いました。

5. 高校教職員囲碁連盟主催の大会への参加

6月に行われた県高校囲碁選手権大会へ参加し、その結果防府高校が団体戦の全国大会に参加し5位に入賞しました。

12月の22日(土)～23日(日)に高校の中国大会が山口県で開催され、山口県から男子団体として2チーム、女子団体として1チーム、個人戦として男女22名が参加しました

演劇部門

理事長 村岡圭吾

(山口県鴻城高等学校教諭)

＜快挙！＞

今年度の山口県のニュースは何と言っても県立華陵高等学校のお隣、福岡県で開催された第47回全国高等学校演劇大会への出場、そして優秀校による東京公演ではないでしょうか。華陵高校ののびのびとした演技を見て、もっと頑張らなければと感じた、生徒や顧問も多かったように思います。華陵高校の皆さん本当におめでとうございました。

＜平成13年度 県高校演劇講習会＞

6月23日（土）秋吉台国際芸術村にて西田豊子先生をお招きして開催しました。身体表現やイメージを語るといった講習会で生徒も教師も一緒に参加しました。表現方法といったものにこだわるのではなく、いかに想像するかに主眼がおかれていたように感じました。芸術をたしなむには恵まれた環境でしたので、ついつい一緒に汗を流しました。

演劇の指導ではあったが、いろんな意味で総合教育のようにも感じられた一日でした。今後も県内から多数の参加があるように努めたい。

＜地区大会・県大会＞

地区大会は周防・山防・宇部・下関の4地区で行われました。各地区とも盛況でした。周防地区では華陵高等学校が東京公演と地区大会の並行スケジュールでの発表と言うことで大変苦労されていました。来年度以降全国大会に出場した学校は地区大会を免除したらどうかという意見もありました。また、今年度は創作作品も多かったように思います。（11作品）

県大会は宇部市の渡辺翁記念会館で10月27・28日に開催されました。講師に篠崎光正（演出家・桐朋学園大短大部教授）をお招きして各地区2校計8校の上演を審査していただきました。舞台づくりや、演技者のレベルは毎年向上しているようであるが、観客を意識した舞台づくりの点では、まだまだ研究・稽古が必要だろう。大会の方は観客も例年になく多く、発表者もやりがいがあったのではと感じています。とにかく演技というのは観客と一体になってつく

るものだと再認識しました。

また、初めての試みである生徒講評委員も概ね成功でした。生徒審査委員は団体賞と個人賞を生徒交流会の最後に発表しました。期せずして団体賞の方は最優秀賞と同じで、生徒の演劇を鑑賞する目の確かさを感じました。来年の宇部で開かれる中国地区大会での試行も現在、思案中です。来年の会場は山口南総合センターを予定しています。

＜中国地区高校演劇発表会＞

11月24日（土）25日（日）に広島県福山市のふくやま芸術文化ホールにて開催。山口県からは岩国高校・岩国総合高校が出場。

各校の上演は、涙あり笑いありの感動ある発表ばかりだった。時代劇や外国ものもあり、レベルの高さを見せつけられました。そんな中、ひときわ輝いたのが、山口県代表の岩国総合高校の作品でした。結婚前夜の母子の会話から成り立つこの劇は、日常生活の一部を切り取ってきたようなリアルさと役者の個性、そして美しい照明による舞台が印象的で、幕が閉じるときにはつい涙がこぼれそうになりました。会場の拍手もひときわ大きかったように思えます。その拍手の大きさの通り、なんと岩国総合高校が最優秀賞に選ばれました。昨年の華陵高校に引き続き、2年連続で山口県から全国大会に出場となりました。39回の大会でも初めてのことです。

また、会場に集まった生徒役員や観客そしてスタッフの協力に感心しました。演劇とはつくづく演じるものだけでは成り立たないと感じました。これからももっともっと多くの学校が大会を観劇し学んで欲しいと思います。

2002年度の中国地区発表会は山口県宇部市の渡辺翁記念会館での開催となります。そして、40周年の記念大会でもあります。「花と緑と彫刻の街」というキャッチフレーズに恥じないように演劇部門関係者の総力を結集してすばらしい大会にしようと考えています。ご協力よろしく願いいたします。是非、皆様多数ご来場下さい。

放送部門

理事長 青木幸子
(山口農業高等学校教諭)

1. 県高総文祭総合開会式

本年度は、宇部西高等学校主管のもと6月15日宇部市渡辺翁記念会館にて県高校総文祭総合開会式が行われました。放送部会がスタートとして高文連の総合開会式ではじめて表舞台に立ったのがこの渡辺翁記念会館でした。インタビューをどんな風に行うか。内容・方法そしてそれまでにインタビューを受けてくれる相手とのコンタクトはどんな風にすれば良いか…手探りでスタートした時から、あっという間の時間であったような、特別な思いを抱かせてくれる開会式でした。宇部西放送部員の生徒達が全て自分達で企画し(照明も放送部員というからびっくりです)、プロデュース力のUPも多いに感じさせてくれる開会式でした。高文連の大会に関わった放送部員の中から、アナウンス、DJ、パーソナリティーと育っていくのを耳にするにつけ、高校生の時に大きな大会を運営していくプロセスの中で、彼等が大きく成長していくことを実感させられた、そんな開会式でした。

2. 全国総文祭・福岡大会

8月5・6日の2日間、隣県福岡で行われた大会で、山口県チームはまたまたの大快挙。静岡岡大会で優秀賞をドカーンとゲットした山口県チームには「賞をとらんと山口に帰られんばい」という闘志がみなぎっていたような…そんなオーラを発散する彼等は、スペースワールドでしっかりエナジーを補給してドカーンとやってくれたのです。APオーディオ部門では山口農業高校「アタシは農高の牛」が昨年に続いての優秀賞。リハーサル時から評判高く「これは絶対いくね」の声を耳にはりきって本番へ。全国1位だったとはびっくりです。それだけで

はありません。朗読部門の全国トップ10に山口高校の青木彩子さんと熊毛南の西村裕恵さんがダブル受賞。2人とも大感激の嵐でした。静岡大会を上回る好成績に応援に来た2年生達はいたく刺激を受け、来年もがんばらねばと、帰路につく電車の中で、来年の作品づくりや作品選択に議論白熱。恐るべしのパワー軍団でした。

3. 県高校総合文化祭放送部大会

昨年につづいて山口農業高校主管のもと11月4日ニューメディアプラザ山口で、第8回放送部大会が開かれました。無理に無理を重ねて超多忙の山口放送勝正男アナを審査員に迎えての大会でした。新人大会の意味をもつこの大会、はじめての舞台である人もたくさんでしたが、実力のほどは年々UP。昨年はあまりにも個性軍団が揃っていたために、若干小さめにまとまって見えはしましたが、半年後の夏の大会あたりには、ベテランの余裕すら窺わせるべく成長してくれることを祈っています。

なお本年度は、予定していた研修会が講師の先生の入院、手術のため中止としました。学ぶことの多い研修会ゆえに、来年こそぜひ充実したものにすべく現在計画中です。



▲県高総文祭(総合開会式)インタビュー風景

将棋部門

理事長 弘中敏之
(防府商業高等学校教諭)

6年前に山口県高等学校文化連盟の13番目の専門部として加盟した当部門は、小さな組織ながら活動も安定し、着実な歩みを続けています。本年度は昨年同様、防府商業高校を事務局として、次の3つの事業を行いました。

1. 山口県高等学校総合文化祭総合開会式の 慶祝展示

防府高校・宇部高校を中心に、6月15日から17日にかけて宇部市渡辺翁記念会館において、半切のパネル写真2葉を展示しました。作成～展示に当たって、本部門の常任理事である防府高校の岡、宇部高校の尾崎両先生および会場設営にあたっていただいた岩国工業の平田先生や主管校である宇部西高校の諸先生方、生徒諸君に感謝しています。

2. 第23回山口県高等学校総合文化祭 将棋部門大会 兼

第37回全国高等学校将棋選手権大会県予選

防府商業高校主管のもと、5月27日(日)中国新聞山口支社3階ホールにおいて開催されました。個人戦と団体戦に、10校64名が参加し、熱戦が繰り広げられました。特に今年は女子の参加が目立ち、4校から8名が参加し女子個人戦を戦いました。個人戦では防府高校3年の近江徹哉君が3連覇を果たしました。また、男子団体戦では宇部高校(見坂卓郎・佐竹知也・木下勇気君)が4連覇を果たし、それぞれ全国大会出場の栄誉を手に入れました。また、女子個人戦が新設され、総当たりのリーグ戦の結果、宇部高校2年の森奈実子さんが優勝しました。

普段、他校生徒との対局の機会の少ない生徒にとって、友情を育む貴重な交流の場となりま



した。さらに学校や民間の将棋関係者の方々の協力体制も安定し、落ち着きのある大会でした。

3. 山口県高等学校文化連盟将棋専門部研修会

防府商業高校主管により、11月4日(日)防府市文化福祉会館で行われました。当専門部の理事の先生を中心にした大会運営の研修と、1・2年生の6校36名の参加生徒の棋力向上を図りました。運営については、昨年の方が好評だったことから本年も日本将棋連盟下関支部の重本由紀夫アマ五段に講師をお願いし、指導対局や男子決勝戦の大盤解説をしていただきました。

現在、山口県将棋界は、まだプロ棋士の輩出を見ていませんが、大学や一般アマチュア棋戦では多くの高校将棋出身者が活躍するようになりました。また、小学生や中学生の間にも将棋教室や道場、さらには普及してきたネット対局等で将棋の裾野は広がっています。今後は、高等学校の部活動を通して将棋文化の普及と棋力のより一層の向上を図る必要があります。特に、普及面では女子生徒の活躍の場をいかに確保できるかが大切な課題となってきました。今後とも、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

第23回 山口県高等学校総合文化祭の記録

総合開会式

会場：宇部市渡辺翁記念会館

主管校 古野 義晴
(宇部西高等学校教諭)



第22回山口県高等学校総合文化祭総合開会式は『熱き心 創る夢 いざ21世紀へ』をテーマとし、平成13年6月15日（金）13時から宇部市渡辺翁記念会館を会場として、盛大に開催された。例年どおり、翌日から2日間にわたって開催された音楽4部門発表会との同時開催であり、3日間で2,700名余りの出演生徒が県下各高等学校から参加した。主管校である県立宇部西高等学校にとっては、全教職員の十分な理解と協力を得て前年度から周到に計画、準備をし、万全を期して臨んだ大会であった。

総合開会式は藤田忠夫宇部市長、牛見正彦山口県教育委員会教育長をはじめ、多くの来賓の御臨席のもと、華やかな中にも厳粛に行われた。

式典は、宇部西高校生徒会副会長・李家さやかさんのはつらつとした開会宣言とともに、宇部地区高等学校合同吹奏楽団の演奏する華やか

なファンファーレで開幕した。つづいて「高文連の歌」の演奏によって高文連12専門部のプラカードが入場し、ステージ上の式典態勢が整った。

山口県教育委員会教育長、山口県高等学校文化連盟会長による、高校生のさらなる文化活動の発展を期待するあいさつにつづいて、主管校生徒会長・藤井慶太君が21世紀の文化への期待を述べた。高校生らしい爽やかなあいさつを行った。宇部市長の歓迎のことばの後、山口県高文連表彰へと移った。「功績賞」は松永忠雄（器楽・管弦楽専門部）、中尾綾子（合唱専門部）のお二人であった。いずれも各専門部理事長としての永年の御尽力を讃えたものである。「優秀芸術文化賞」は全国総文で優秀賞を受賞した県立山口農業高校放送部。「テーマ最優秀賞」は県立宇部西高校美術部へそれぞれ授与された。式典の最後に山口県高文連各専門部の紹

介を行った。客席の一般高校生にとっては、全13部門の活動のようすを改めて十分に知ってもらうことができたのではないと思われる。以上で式典は終了し、休憩の後慶祝演奏へ移った。

慶祝演奏は宇部女子高等学校バントワリング部、ブラスバンド部合同による華麗なステージで開幕し、会場全体が和やかな雰囲気盛り上がった。県立厚狭高等学校箏曲部による琴の演奏、宇部地区高等学校7校で編成された合同吹奏楽団の演奏。続いて、260名の合唱団（県下12校で編成）と83名のオーケストラ（県立下関南高校）による「ハレルヤ」、「大地讃頌」が壮大に演奏され、圧倒的な迫力と感動が会場内を包んだ。最後に会場全員で「翼をください」を合唱し、2時間におよぶ総合開会式は幕を閉じた。なお、すべての進行、アナウンスは高文連放送専門部の協力により、県立宇部西高等学校放送部が担当しました。

総合開会式を宇部地区で開催するのは数年に一度である。この機会に文化部以外の高校生にもぜひ来場を、と呼びかけた。市内の各高校から多数の生徒が参集し、高文連の活動のすばらしさを、直に感じてくれたのではないと思われる。

総合開会式と並行して行われた慶祝展示は、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、演劇の6専門部で行われた。展示場所を式典と同会場

の2階ロビーに設定したので、例年以上の多くの観覧者が来場し、大変好評であった。

今回総合開会式を担当した所感としては、主管校としての負担が思った以上にかかったこと。音楽4部門発表会との同時引受でもあり、かなりの労力を必要とする時期もあった。校内の万全の協力態勢、宇部地区音楽関係教諭の方々の絶大な協力のおかげで、何とか重責を果たすことができたのではないかと考えている。

反省点、改善すべきことなどを各方面からいただいているので、次年度主管校、県立下関第一高等学校へ十分な引継をしておきたい。

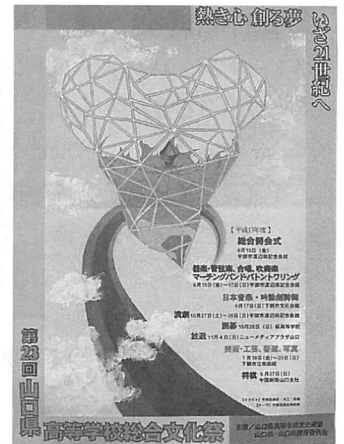
最後にこの大会を開催するにあたり、地元宇部市をはじめ、関係諸機関、多くの先生方のご支援を賜り、無事終了できましたことを、心からお礼申しあげます。





▲表彰式風景

▶大江美穂（宇部西高校）さんのイラストを基にしたポスター



▼慶祝展示



▼会場前の様子



◇慶祝演奏

<マーチングバンド・バトントワリング>

『明日があるさ』

『Can You Keep A Secret』

【演奏】宇部女子高等学校

プラスバンド部、バトントワリング部

<日本音楽>

『変奏曲 さくらさくら』

【演奏】厚狭高等学校箏曲部

<吹奏楽>

『アマポーラ』『ジャンバラヤ』

【演奏】宇部地区高等学校合同吹奏楽団

(指揮) 山本博資

<合唱、器楽・管弦楽>

“オラトリオ《メサイア》より『ハレルヤ』”

“カンタータ《土の歌》より『大地讃頌』”

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

(指揮) 古野義晴

<全員合唱>『翼をください』

【演奏】山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

(指揮) 古野義晴

<放送> 幕間出演および進行アナウンス

山口県高等学校文化連盟放送部会

◇慶祝演奏出演校

【マーチングバンド・バトントワリング】

宇部女子高等学校

【日本音楽】 厚狭高等学校

【宇部地区高校合同吹奏楽団】

宇部 宇部西 宇部商業 小野田

厚狭 香川 ……各高等学校

【山口県高等学校合唱団】

安下庄 岩国 防府 山口中央

宇部 宇部中央 萩 奈古 高

水 野田学園 サビエル 萩光

塩学院 ……各高等学校

【山口県高等学校管弦楽団】

下関南高等学校

◇慶祝展示

<美術・工芸> 宇部地区各高等学校及び高等部

<書道> 宇部 宇部中央 宇部西 宇部商業

宇部工業 小野田工業 厚狭 サビエル

……各高等学校

<写真> 徳山 宇部 宇部工業 ……各高等学校

<囲碁> 萩高等学校

<将棋> 防府 宇部 ……各高等学校

<演劇> 華陵 下関南 ……各高等学校

◇進行アナウンス

県立宇部西高等学校放送部

山口県高等学校文化連盟放送部会

◇山口県高等学校文化連盟 表彰者

【功 績 賞】

・松永忠雄 (器楽・管弦楽専門部)

昭和62年度～平成12年度 山口県高文連

器楽・管弦楽専門部理事長

・中尾綾子 (合唱専門部)

昭和62年度～平成4年度 山口県高文連

合唱専門部理事長

【優秀芸術文化賞】

・山口農業高等学校放送部 (放送専門部)

<第24回全国高等学校総合文化祭放送部門

オーディオ・ピクチャーの部優秀賞

= 3位以内 =>

【テーマ最優秀賞】

・山口県立宇部西高等学校 美術部



音楽関係 4 部門発表会

器楽・管弦楽部門

会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長 飯田幸生
(下関南高等学校教諭)

平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭の音楽関係 4 部門発表会は 6 月 16 日（土）、17 日（日）の 2 日間にわたり、宇部市渡辺翁記念会館にて開催されました。また、前日の 15 日の総合開会式においては、満員の聴衆のもと、合唱部門との合同で式典の慶祝演奏を行いました。

今年はステージが狭いため、思うような編成が取れず苦勞しましたが、管弦楽は 80 名を越える編成で精一杯演奏いたしました。。演奏曲目は去年に引き続き、ヘンデル作曲のオラトリオ「メサイア」から“ハレルヤ・コーラス”そして佐藤眞作曲のカンタータ「土の歌」より“大地讃頌”の 2 曲を演奏しました。今年も合同練習は当日の午前中のみという厳しい状況の中、宇部西高等学校の古野先生の躍動感溢れる明快な指揮のもとで、開幕式典にふさわしく、荘重

で輝かしい音楽が見事に演奏されました。その演奏は多くの聴衆に深い感銘を与えたことと思います。

さて、翌日の朝から 2 日間にわたって開催された音楽関係 4 部門発表会には器楽・管弦楽部門からオーケストラ 4 校、ギター、マンドリン合奏 2 校、弦楽合奏 1 校が参加いたしました。多数の吹奏楽部門の参加校に混じって、その演奏は一服の清涼剤ともいえるすがすがしい演奏でした。各校共に弦楽器の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

次回の下関大会ではさらに練習に励み、研鑽を積んだ成果を十分に発揮されることを期待しています。



合唱部門

会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長 有 富 美 子
(萩高等学校教諭)

平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門の発表会は、6月15日（金）、16日（土）、17日（日）の3日間にかけ、「宇部市渡辺翁記念会館」にて、盛大に開催されました。15日の開幕式典では、例年のように器楽・管弦楽部門と合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。

オーケストラと252人の大合唱は、ホール一杯に響き渡り、大いに盛り上がりました。日頃小人数で演奏活動をしている生徒達にとってはもちろんのこと、聴衆の方々にも深い感銘を与えたことと思います。但し、会場が狭く合唱団が全員ステージに上がれず、一部の生徒はステー

ジの下に降りて歌いました。目の前がすぐ客席なので、かなり歌いにくい面があった様です。

その後、音楽4部門の発表に移り、高校生の熱心な演奏が続きました。

合唱部門の出演校は、12校（山口農、山口中央、サビエル、高水、萩光塩、奈古、萩、野田、宇部、宇部中央、岩国、防府）、出演者は242名でした。会場一杯に美しい歌声が響き渡り、各校特徴のある演奏で、日頃の練習の成果をのびのびと発揮されていました。来年度は“下関市民館”で開催されます。さらに練習に励み、一人でも多くの合唱部員を増やし、より美しいハーモニーを聞かせて下さい。期待しています。



吹奏楽部門

会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長 藤本博途

(岩国商業高等学校教諭)

平成13年度第23回山口県高等学校総合文化祭の総合開会式は、6月15日（金）宇部市渡辺翁記念会館で開催されました。

吹奏楽部門として例年どおり開幕式典に宇部地区高校合同吹奏楽団（宇部、宇部西、宇部商業、小野田、厚狭、香川）を編成し、小野田高等学校の山本博資先生の指揮で、ファンファーレ、高文連の歌で華やかに開幕し、慶祝演奏では“アマポーラ”“ジャンバラヤ”“式典のための行進曲『栄光をたたえて』”の3曲を演奏しました。力強くすばらしい演奏でした。

音楽4部門発表会は、16日（土）と17日（日）

の2日間にわたって開催されました。吹奏楽部門には51校1,655名の生徒が参加し、すばらしい演奏を披露してくれました。少子化により部員数が少なくなっている学校もありましたが、演奏力は衰えておらず、各校ともすばらしい演奏でした。一日の最後は下関西高等学校（藤田隆行先生指揮）、長府高等学校（友永次郎先生指揮）の伴奏で『翼をください』を全員合唱し、感動の中で閉幕しました。宇部地区の生徒補助員の動きや態度もすばらしかったことも特筆されます。来年度は下関市民会館で開催されます。また来年もすばらしい演奏を期待しています。



マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長 松浦 真実
(佐波高等学校教諭)

『県総文祭に参加して』

宇部女子高等学校 永野順子

地元、宇部市で開催された山口県高等学校総合文化祭に私達宇部女子高校は、バトンテクニックとリズムカルなダンスをマッチさせることを目標として『Let's Dance』をテーマに、選曲から振り付けまで部員一同力を合わせ取り組みました。2、3年生のアップテンポな動きに、入部まもない1年生も一生懸命ついてきてくれたお陰で発表会当日は全員笑顔で、ステージに立つことができました。トスしたバトンをキャッチするたびに会場から大きな拍手をいただき皆さんの声援を受けながら演技を終えた時の感動は忘れられません。宇部女子高校のコスチュームでの演技は今年が最後です。来年は慶進高校として新たな出発になります。バトンを愛する私達の心を後輩に伝え、この感動を味わって貰いたいと思います。ご声援下さった会場の皆さんありがとうございました。

宇部女子高等学校 荒川亜矢

私達ブラスバンド部は、6月15・16・17日宇部市渡辺翁記念会館で行われた県総合文化祭に出場しました。15日はバトン部と一緒に慶祝演奏に参加し、16日は吹奏楽部門で『威風堂々』を演奏しました。この曲はテンポが速くなったり遅くなったりして、とてもリズムがとりにくい箇所がありました。練習の時は知っている曲にもかかわらず、「できない」と言っていたけれども本番が近づくにつれて徐々に上手になっていきました。

いよいよ本番当日、演奏が始まり、最初は緊張して音があまり出ていなかったが、だんだんいつもの調子を取り戻し、音が大きくなっていき、気持ちよく演奏できました。

来年度の県高校総合文化祭では、もっと上手に演奏ができるようにしたいと思い、日々練習に励んでいます。



県高総文祭・日本音楽・吟詠部門

会場：下関市文化会館

主管校 **田辺亨子**
(早鞆高等学校教諭)

初夏のさわやかな好天に恵まれた平成13年6月17日（日）第23回山口県高等学校総合文化祭・日本音楽部門の発表大会が開催されました。多くの学校のご参加とご協力をいただき無事終了することができました。例年ならば自分たちだけの演奏に専念し、あとはゆっくり他校を鑑賞するだけでしたから、生徒もこの大会をとて楽しんでしていました。しかし今回、主管校として会の運営をお引き受けしてみても改めて、過去22回の運営をされてこられた方々のご尽力に頭の下がる思いです。何気なく受けていたご配慮にも細やかな気配りがなされていたことを今さらながら痛感した次第です。とりあえず今まで通りに心をかけたつもりでしたが、行き届かぬことや失礼があったことと反省しております。お許してください。

最近ではどの学校も生徒のクラブ離れが懸念される中、15校16演目の参加がありました。箏曲を中心にしたプログラムでしたが各校とも趣向を凝らし、とても充実した内容だったと思いま

す。発表の持ち時間はわずか15分程度でしたが大会に向けて本当に多くの時間を練習に費やされた様子がうかがえ、何としても大会を成功させなければと身の引き締まる思いでした。真剣なまな差しで楽器に向かい、一生懸命曲に取り組む生徒たちの姿はとても輝いて見えました。日本音楽部に入部する生徒の多くは、初めて琴や三味線・太鼓に触れたのではないのでしょうか。翌日の新聞各紙で日本音楽に打ち込む生徒のことを評価して取り上げていただいたことも嬉しいことのひとつでした。新しい時代がきてても日本のよき伝統芸をこうやって受け継いでくれる生徒がいることを大切に、今後ますます充実した発表大会が開催されることを期待しています。本校は残念ながら箏曲部は休部中ではありますが、また日本音楽に興味・関心を持ってくれる生徒が入学してくれることを待ち望みながら、今は太鼓を通して礼儀や思いやり、そして技と心を身につけていってほしいと思っています。山口県文化連盟の方々はもとより多く

の関係者の皆様方にたいへんご迷惑をおかけしたと思います。ありがとうございました。ひと言お礼を申し添えて来年度に引き継がせていただきたいと思います。



県高総文祭・展示関係部門

会場：美術・工芸、書道、写真部門……下関市立美術館

主管校 **河合 和子**
(下関西高等学校教諭)

平成13年度、第23回山口県校総合文化祭展示部門（美術・工芸、書道、写真）は、平成14年1月18日（金）～20日（日）の3日間、下関市の下関市立美術館を会場に開催されました。山口県立下関西高等学校を主管に、下関地区8校の協力を得て運営委員会が組織され、準備が進められました。

展示部門は、例年『芸術の秋』の10～11月に開催していたのですが、今年度は1月、真冬の展覧会となりました。季節柄、気候の影響なども心配されましたが、3日間天候にも恵まれ、制作期間が長く取れた事が関係しているのかどうか、特に美術・工芸の出品点数が増加し、全体的にも力作が揃いました。総出品点数308点、3部門の出品校数が延べ77校という多くの参加を得、また美術館という、この上なく立派な会場を得て、賑やかにオープンの日を迎えました。

市内の高校生が参加した、18日のオープセレモニーを皮切りに展示が開始され、最終日の20日には、優秀賞（来年度、第26回全国高等学校総合文化祭出品候補作品）の表彰式や各部門別の講評会も催されました。その最高賞には、美術・工芸部門5点、書道部門4点、写真部門5点の計14点が決定し、8月に神奈川県横浜市を中心に開催される全国大会に出品されることが決まっています。全国の会場で、山口県の高校生の情熱とエネルギーをアピールしてくれるものと期待しています。

講評会では、各部門の先生方はじめ、専門の方々に、出品作品に対する講評をいただきました。各部門を通して、新しい試みに挑戦しようとする意欲的な態度が感じられ、表現力の多彩さ、技術の向上が見られる、それぞれの今後の

成長と努力を期待する、というお話がありました。個々の作品について、具体的なアドバイスをいただいた生徒も多く、緊張してその言葉のひとつひとつに耳を傾ける様子が、あちらこちらで見られました。

運動部に比べ、こうした個々の作品を創る活動が主となる部活動では、他校生しかも県下全域に渡る他の高校生との交流の機会は、非常に少ないと思います。直接、他校の、同じ高校生の作品に触れ、大きな刺激を受け、また意欲を掻き立てられた人も多かったのではないのでしょうか。最終日は、450名あまりの来場者を迎え、熱気と興奮のうちに、大会は盛会のまま幕を閉じました。



第23回県総文祭展示部門出品校一覧表

	学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真		学 校 名	美術・工芸	書 道	写 真
1	岩 国	5	4		24	厚 狭	5	2	
2	岩国総合	5	4		25	美 祢 工 業			8
3	岩国工業	4			26	豊 浦	5		
4	柳 井	4			27	長 府	5		
5	柳井商業	1			28	下 関 西	2	4	10
6	光	1		8	29	下 関 南	5	4	
7	光 丘	3			30	下 関 第 一	1	4	4
8	熊 毛 北	4	3	10	31	下関中央工業	3		5
9	下松工業			1	32	大 津	3		
10	徳 山	5	3	6	33	萩 商 業	4	4	
11	南陽工業			5	34	萩 工 業	2		
12	防 府	2	4		35	壱 岐	2		
13	防 府 西	3	1		36	防府養護		3	
14	山 口	5	4		37	下関養護	5		
15	山口中央	5	4		38	下関商業	4	4	
16	西 京	4		3	39	高 水	2	4	
17	宇 部	5			40	中村女子		4	
18	宇部中央	5	3		41	野田学園	5	4	
19	宇 部 西	5	2		42	宇部鴻城			3
20	宇部商業	5	2		43	宇部女子	5		
21	宇部工業		2	10	44	早 鞆	3	3	
22	小 野 田			6	45	下関短大付属		2	
23	小野田工業			10	46	萩光塩学院	5	4	
						合 計	137	82	89

第23回 県高総文祭展示部門・優秀作品一覧

美術・工芸部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
下関商業高等学校	1	村田 公人	テクノラートの澱	◎
宇部高等学校	2	小中大 地	オレと兄貴	◎
宇部中央高等学校	2	師井 綾子	教室からの風景	◎
山口高等学校	2	宮原 なつき	Where am I going?	◎
大津高等学校	2	福田 麻喜子	標準設定	◎
下関商業高等学校	1	岡田 拓也	EVILPIG	
下関商業高等学校	1	佐伯 瑤子	涅槃～nirvana～	
柳井高等学校	2	田中 優里	放課後の私	
野田学園高等学校	2	大岡 暁	積まれたガラクタ	
宇部中央高等学校	3	梶田 裕二	電線	
山口高等学校	2	小川 喜子	蛙の子は蛙?	
厚狭高等学校	1	清水 美樹	千夜	
宇部商業高等学校	2	羽瀧 友香	Free Soul	
宇部商業高等学校	2	沖野 桃子	混沌	

書道部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
萩商業高等学校	1	伊藤 愛子	臨 蘭亭序	◎
下関商業高等学校	1	藤井 寛子	臨九成宮醴泉銘	◎
高水高等学校	1	竹中 昌子	臨 牛欄造像記	◎
早柄高等学校	1	小島 裕香理	臨 楊峴山隸書七言對聯	◎
徳山高等学校	2	和田 里美	「佛」	
防府高等学校	2	瀧口 恵璃子	臨 雁塔聖教序	
下関第一高等学校	2	福田 正義	臨 源氏物語絵巻	
高水高等学校	2	由川 雅恵	臨 松風閣詩巻	

写真部門

高等学校名	学年	氏名	作品名	全総文候補作品
下松工業高等学校	1	中茂 貴博	竹林	◎
徳山高等学校	1	西嶋 基	放課後 I	◎
宇部工業高等学校	2	波木 聡史	自我像	◎
宇部工業高等学校	1	山村 悠介	想い	◎
宇部鴻城高等学校	2	佐藤 純	めまい	◎
宇部工業高等学校	2	越智 亮	Teen age Lunch	
宇部工業高等学校	2	波木 聡史	こっち向いて!	
美祢工業高等学校	1	小倉 和也	勝利への執念	
下関第一高等学校	2	古川哲也・狩俣博光・磯永拓矢	母校は胸に	

※第26回全国高総文祭（神奈川大会）候補作品は上記の美術工芸5、書道4、写真5。

美術・工芸部門

会場：下関市立美術館

理事長 **平田 博 英**
(岩国工業高等学校教諭)

会場の都合により、例年より2ヶ月遅い開催となりましたが、1月18日より3日間、下関市立美術館に飾られた美術・工芸部137点の作品は、昨年度と比較すると、40点近くも作品数が増え、なかなか見応えのある内容となりました。特に、14本の石柱からなる回廊の壁面に飾られた作品、そして石のフロアーに並んだ立体の作品は、この会場ならではの荘厳な雰囲気によくとけ込み、気品さえ漂っていました。作品を出品した生徒にとっても、良い記念になったと思います。

今年度の3部門展は、残念ながら会期中、好天気に恵まれることがなく、最終日の表彰式と講評会も、雨足の中行われました。その中を、表彰式には全国総文祭への出品候補作品となる5人の受賞者が顔をそろえ、また、講評会では、県内から多くの美術部員が集まってくれました。そして、下関地区の先生方による熱い講評に多くの生徒が耳を傾け、盛況なうちに幕を閉じることができました。

さて、生徒減少に伴う影響か、ここ数年出品数は減少の傾向にありました。今回、例年より遅い会期となり、出品作品の数が心配されましたが、こちらの心配を大きく裏切る作品数となり、出品校数も37校と、昨年度と比較して7校も増えるという、嬉しい結果を得ることができました。この県総文祭に対し、各校美術・工芸部の意識は十分高いものであることを、あらためて感じました。

ところで、美術・工芸部門の全国的な動きとしては、絵画、デザイン、彫刻、工芸という分け方から、「平面と立体」という、2種類の分け方へ移行します。機会あるごとに、「立体作品に取り組もう」と呼びかけてきました。その

成果があったというわけではないですが、今回の部門展では、14点の立体作品を展示することができました。会場に足を運んでいただいたかたはお判りでしょうが、その大きさ、質とも、この部門展始まって以来の内容だと思われます。また、今回出品された立体作品は多様性に富んでおり、美術・工芸部員の生徒にとっても、立体作品に取り組む意味において、参考となる面も大きかったと思われます。平面3：立体2の全国枠から考えれば、まだまだほど遠い作品数ですが、それでも、全国への意識は、着実に各校美術・工芸部に浸透していくことを期待しています。

最後に、各美術・工芸部顧問の先生方に改めてお願いがあります。今回、各校より搬入された平面作品の中のいくつかは、若干の不備な点があり、展示設営を行う上で、かなり時間を取ってしまうことが起きました。少なくとも、作品が即展示できるよう、裏面に展示用金具、ひもなどを必ず取り付けておいて欲しいということです。作品受け取り、確認、展示、審査、名票貼り付け、受賞者への連絡等々、展示設営に関する仕事は、前日の1日のみです。ご協力のほど、よろしくお願いします。

書道部門

会場：下関市立美術館

理事長 有 富 由 美
(防府高等学校教諭)

今年度の展示部門発表会は、県の西端下関で開催されました。凍てつく冬の寒空の中でしたが、下関市立美術館の展示会場には、作品にこめられた高校生のエネルギーが熱くみなぎっていたように感じました。

書道部門としては、出品作品数82点、と昨年よりやや減少し、生徒数減、部員数減の実情が表面化しつつあり、強い危機感を感じます。そんな厳しい状況の中だからこそ、この県高総文祭への参加が、各校各部の活性化につながることを期待し、来年度大会の参加のよびかけの重要性を痛感しています。

さて、今年度の作品についてですが、まず種別に分類してみますと、

漢字の書……66点 仮名の書……2点

漢字仮名交じりの書……8点

篆刻・刻字……6点

圧倒的に漢字の書が多くはありますが、昨年度と比較して、漢字・仮名の書は減り、漢字仮名交じりの書や、篆刻・刻字が増加の傾向にあります。古典に真面目に取り組む姿とともに、自らのエネルギーを爆発させた一字書や、心にしみた言葉を素直に紙面に表現した漢字仮名交じりの書、筆を刀に持ち換えて大印に挑戦したもの等、生徒一人一人のいきいきとした姿が、作品から垣間見られる展示であったと思います。

審査会では、6人の審査員により、優秀賞8点、うち全総文候補作品4点が選ばれました。どれも、表現力に富んだ、すばらしい作品でした。全総文候補に選ばれた4名の皆さんは、神奈川県で開催される全国大会へ向けて、さらなる練成を重ね、山口県代表として誇りを持って参加してほしいと思います。

また、審査を行っての気づきとしては、作品

の内容は、熱心に書き込まれすばらしいものばかりですが、中に、学校名の入った落款印を押してある作品がありました。出品要項に明記してある通り、学校名がわかる落款や落款印の入った作品は、審査の対象から除外することになっています。どれも真面目に素直に古典に取り組んでいた作品であっただけに、とても残念に思いました。ぜひとも来年には、すべての作品を対象にして審査したいものです。

書道科教員が減少する中、今年も各校からこんなにすばらしい作品が多数出品されたことをうれしく思い、それはすなわち、各校書道部顧問の先生方の熱心なご指導のたまものであると心から感謝いたしております。また来年度の高総文祭へ向けて、各校の取り組みがさらに活発になり、いきいきとした高校生の姿が、書道教室にあふれている部活動であるようにと期待しています。

最後に、今年度主管校として担当されました下関西高校の河合先生を始めとして、運営にあられた下関地区の諸先生方、寒い中協力してくれた市内高校生の皆さんに、改めて感謝の気持ちを述べ、報告といたします。



写真部門

会場：下関市立美術館

理事長 佃 幸憲
(光高等学校教諭)

今年度の写真部門展示は、平成14年の1月18日（金）から20日（日）までの3日間、下関市立美術館にて行われました。17日（木）の朝から夕刻近くまで、周辺校の補助生徒たちの協力も受け、無事会場設営そして審査が完了しました。今年は、出展数は計85点で、その内訳はモノクロ74点、カラー11点でした。モノクロの作品の中には、焼き直しを30回近くも試みて、自分の思いの作品に仕上げたものがあったそうです。このひたむきさと、根気強さには感心させられました。地味な作業の中にも、写真への情熱を傾けている高校生の姿に感動を覚えます。今年度の審査委員長は前年に引き続き、日本報道写真連盟 宇部支部長 前田隆義氏にお願いしました。長年、多くの写真を見てこられた専門家の目で審査してもらい、最優秀作に以下の5点が選ばれました。（すべてモノクロ・単写真・全紙サイズ）

- ①下松工業高等学校 中茂貴博 作「竹 林」
- ②徳山高等学校 西嶋 基 作「放課後」
- ③宇部工業高等学校 波木聡史 作「自我像」
- ④宇部工業高等学校 山村悠介 作「想 い」
- ⑤宇部鴻城高等学校 佐藤 純 作「めまい」

どの作品も、仕上げに苦労した様子が伝わり、完成までにいろいろな手直しがあったと思います。撮影ポイント・対象物を絞り、何度も撮影を行ってフィルム現像をする。そして、最も自分のイメージに近いネガから、最適なフレーミングをして印画紙に焼いていく。その一つ一つの過程の中で、技を競い合う。モノクロには

そういった醍醐味があります。覆い焼き技法やぶらし撮影を使ったものもあり、白・黒二色の濃淡による作画の美しさに目を惹かれました。全国大会での評価が楽しみです。

最終日の20日（日）の午前中には、年1回の撮影研修会を行いました。会場横の長府庭園にて行われ、県内の高校6校が参加し、顧問・生徒など合わせて計30名程度のものとなりました。心配された風・雨や雪もなく、光線の具合もちょうど良い曇り空の、撮影日和でした。講師の前田さんより撮影の仕方へのアドバイスを受けながら、撮り終わったフィルムをすぐに、スピード現像・プリントに回し、午後の講評会で研修を行いました。この方式は、今年度の福岡大会になったもので、県大会でも初めての試みでした。お互いに撮影した作品を、即日現像プリントし、優秀作3点の公開審査および講評会を行いました。まったく同じ条件で撮影する中、こんなに作品に違いがあるのかといった驚きや感動があったようです。撮影の奥深さ・楽しさを生徒たちも存分に味わえたと思います。来年は、さらに優秀賞の製作者からも撮影などでの苦労した点などを語ってもらい、生徒たちの交流やお互いの技術アップにつなげて欲しいと思います。



囲碁部門

会場：萩高等学校

理事長 **井 町 頼 信**
(萩高等学校教諭)

平成13年度の第23回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門の第13回大会兼第26回全国高等学校文化連盟囲碁部門第15回県予選大会は、平成13年10月28日（日）萩高等学校で開催されました。

参加校は14校で男子65名、女子8名、計73名で、女子の参加が例年より減少したのが気になります。団体戦は3人で1チーム、トーナメントで、個人戦は四面打ちの変則リーグ戦（ハンディ戦）で団体戦と同時進行で行われました。結果は次の通りです。

＜団体戦＞男子 優勝 防府高等学校
準優勝 下関西高等学校
女子 優勝 下関西高等学校

＜個人代表決定戦＞

男子 優勝 大田晃司 防府高等学校
女子 優勝 貞政伸恵 宇部商業高等学校

＜団体代表決定戦＞男女混成3人チーム編成

男子 代表 吉津宏樹 萩高等学校
代表 工藤正英 豊浦高等学校
女子 代表 萩恵理子 下関西高等学校

なお、全国高校総文祭の代表決定戦は、第4戦目に行い、3回戦までの成績と棋力を考慮に入れて選抜委員が10名を決定し、この10名が代表の5名の座をかけて対局時計を使用し、互先で戦いました。この決定方法は、多くの矛盾する目的がからみあい、非常に複雑なものです。なんとかすっきりした決定方法がないものかというのが大会関係者の願いです。

それぞれ優勝（代表）の5名は、平成14年8月9日（金）、10日（土）に神奈川県平塚市で開催される全国大会に参加する予定です。

なお、今回の県予選大会は、会場の近くの廊下に展示品を掲示しました。今、全国では、「ヒカルの碁」がブームとなっています。これにあやかって、県内の高校生が碁が好きになって、一人でも多くの人が大会に参加してくれることが夢です。

囲碁は、集中力、思考力、決断力が瞬時に問われます。囲碁で培った力と、深い人間的な絆を支えに21世紀を切り開いて下さい。



演劇部門

会場：宇部市渡辺翁記念会館

理事長 **村岡圭吾**
(山口県鴻城高等学校教諭)



今年は10月27日（土）・28日（日）に文化の香りたどよう「花と緑と彫刻の街」の宇部市渡辺翁記念会館で県大会が開催されました。

会場はコンクール形式の発表ということもあって熱気に包まれていました。

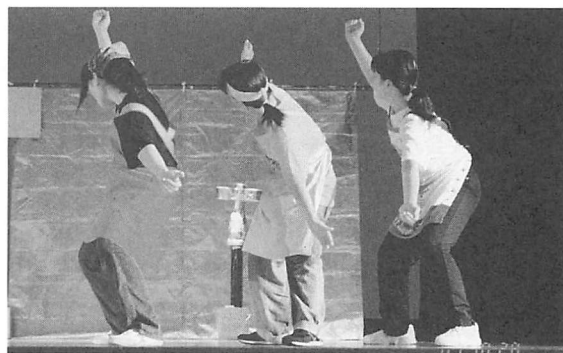
舞台は各校とも様々な工夫がしてあり、観客を魅了するものでした。印象深かったのは、個性的な役者が多かったように思える大会だったと思います。特に自分の年齢とは違う年寄り役を演じている生徒には感心させられました。

審査員の講評や感想にも年齢が上の役をやる難しさがあがりました。自分の視点でなく観客や周りから年上の役を研究して欲しいということでした。

今大会では初めて生徒講評委員会というものをもうけ、生徒の視点から特別賞を授与する事も決めました。期せずして、講師・審査員と同じ様な選考となったことを考えると、生徒の演劇を見る鑑賞力の確かさを感じて、驚きました。

大会運営には多くの顧問・生徒が参加し、普段の学校生活とは違った、生き生きとした高校生の姿を見ることが出来ました。こういった場面も部活動において大変重要だと感じました。

会場が伝統ある文化財指定の場所なので、舞台の使い勝手の悪さや道具の置き場所に大変悩まされましたが何事もなく、無事運営されまし



た。宇部地区の先生方には、ただただ感謝しています。

高校演劇は60分という時間の中で演じられるわけですが、その中でいろいろな感情表現を台詞や身体表現そして間や音楽で表現するものです。一つの舞台を作ることは演じるものだけでは出来ないことを裏方の生徒の表情を見て思いました。そういった意味で演劇とは総合教育の現場だとつくづく思いました。より多くの高校生の目にこの場面が映ってくれることを期待します。

第23回山口県高等学校総合文化祭演劇部門 第20回山口県高等学校演劇大会 ＜出場校・上演作品一覧＞

学校名	作品名	作者名
宇部	祭りよ、今宵だけは哀しげに	加藤 純・清水洋史
西京	風の海のエビタフ	藤沢ひろ・演劇部潤色
下関第一	ゆめ〇夢のあと	宮野尾美紀子
岩国	ぼくたちの国語数理科社会	安部 順・中川友美潤色
下関南	人生、けっこうえもんよ	長崎純真女子高等学校演劇部 演劇部脚色
岩国総合	『めろん』エピソード ワン	高橋幸雄
山口	炎のシグナル	井口俊司
サビエル	あの大鵬、さえも	竹内統一郎・松井雪江脚色

＜講師・審査員＞

篠崎光正（演出家・桐朋学園大短大部教授）

山口武信（劇作家）村岡圭吾（山口県鴻城高等学校）

放送部門

会場：ニューメディアプラザ山口

理事長 **青木幸子**
(山口農業高等学校教諭)

11月4日、山口農業高校主管のもと、第8回放送部大会が、ニューメディアプラザ山口を会場に行われました。新しく参加した学校も含め、舞台上上がるのは「はじめて」のメンバー達。8時過ぎには会場周辺でいっせいに発声練習がスタート。年々放送部大会のレベルはアップし、昨年、今年と2年続きで、全国大会の優秀賞をたくさん受賞することができるまでに成長。先輩方のつくりあげてくれたものの上に、その年ならではの新鮮な材料を持ってきて自分の思いを十二分に発揮すべく、毎日の練習に精進する。という、最近若干少なくなってきた「日々努力」のポリシーが放送部員一人一人からうかがえる、そんな大会でした。

審査は昨年に続いて、山口放送の勝正男アナが、アナウンス、朗読部門を担当して下さり、AP、ビデオメッセージに関しては、今年あらたに赤瀬洋司テレビ製作部長が担当。作品数も増えて、とりわけビデオ撮影には新しい機器が続々登場。ビデオ再生に関してちょっとしたハプニングはあったものの、午後からの作品発表は、とても愉快かつ充実したものであったように思われます。

個人のアナ・朗読に関しては、昨年のメンバーがあまりに超高校級といわれていた分、こじんまりではありましたが、素直な読みや情熱に、半年後の成長を大いに予見できる気がしました。

来年度、神奈川大会に推薦されたのは次のとおりです。

アナウンス部門／

柴田祐一 (山口農業高等学校)

山田亜里紗 (岩国高等学校)

石田絢香 (熊毛南高等学校)

朗読部門／牧田由美子 (岩国高等学校)

宮本奈々 (宇部高等学校)

清正裕子 (山口高等学校)

ビデオメッセージ部門／

岩国高等学校

「a tempo～自分らしく私らしく～」

AP オーディオ部門／

華陵高等学校

「あなたが私にくれたもの」

将棋部門

会場：中国新聞山口支社

理事長 弘中敏之
(防府商業高等学校教諭)

第23回山口県高等学校総合文化祭将棋部門大会は、全国高等学校総合文化祭将棋部門（兼）第37回全国高等学校将棋選手権大会の県予選を兼ねて、5月27日（日）中国新聞山口支社3階のホールにおいて開催されました。専門部が設立されて6年目を迎え、大会の企画運営等関係諸団体や役員同士の連携も順調に進められた大会となりました。県教育委員会や関係新聞社の方々、高等学校文化連盟からは会長の先生をはじめ事務局長の諸先生が出席されました。

参加校は昨年と同様に10校でした。男子は、56名でしたが、女子の参加者が8名を数え、女子の普及を課題とする当専門部にとってうれしい参加者の拡大がありました。対局方法については例年通り総平手。男子個人戦は3～4名1組の予選リーグを行い、2勝を挙げた2名はA級トーナメントに進出し、県代表を賭けて戦いました。リーグ戦で惜しくも敗退した生徒はB級リーグ4回戦を戦いました。団体戦は7チームが総当たりで激突しました。また、女子個人戦は総当たりで7局を戦い、日頃他校の生徒と対局する機会の少ない女子生徒にとって貴重で有意義な大会となりました。運営上、男子個人戦の一部では20分～25分の切れ負け制とせざるを得ませんでしたが、他の対局では30秒の秒読み制を導入することができました。秒読み付の対局時計の導入と共に、切れ負け制から秒読み制への移行は、全国の大会の趨勢ともなっており今後も可能な限り変換して行ければと思います。選手の皆さんには、決して十分とは言い切れない対局条件でしたが、3局～7局もの対局に臨むことができ、交流を深める意味からも充実した大会となったと思います。

結果は次の通りです。

<男子団体戦>

- ・優勝／宇部高等学校A
(見坂卓郎、佐竹知也、木下勇氣)
- ・準優勝／防府高等学校
(梶山大樹、原田一正、大田晃司、松本也)
- ・第3位／宇部高等学校B
(馬場祐樹、平田 淳、藤井達也)

<男子個人戦>

- ・優勝／近江徹哉（防府高等学校）
- ・準優勝／芥川裕哉
- ・第3位／木村弘志

<女子個人戦>

- ・優勝／森 奈実子
- ・準優勝／土屋仁美
- ・第3位／山田沙耶香

男子個人戦と団体戦の優勝者は、福岡県北九州市で開催された全国大会への出場権を得ました。また、女子個人選の優勝者については、レベルや今後の女子生徒の参加状況等を考慮してこれからの課題となりました。全国大会への出場の途が男女ともに開かれるよう、当専門部としても力を尽くしますが、何よりも皆さんの理解と協力が頼りです。今後一層の応援をよろしくお願いします。



第25回 全国高等学校総合文化祭の記録

【大会テーマ】

金印の地に文化の花開き 今 21世紀始まる

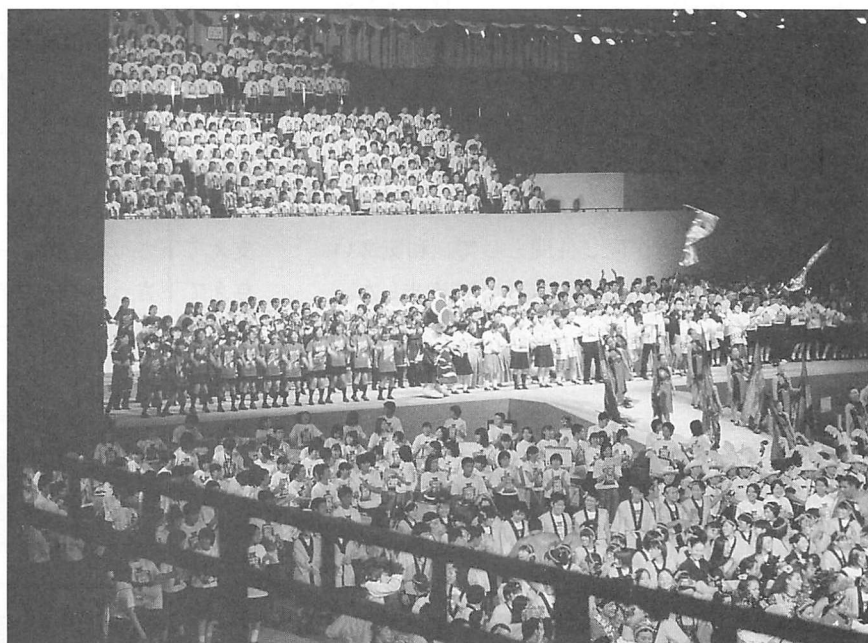
全総文（福岡大会）参加校一覧

部 門	高 等 学 校 名	参加生徒	備 考（演奏曲目・作品等）
パ レ ード	県 立 佐 波	(40)	マーチングバンドにも出演
	三 田 尻 女 子	(15)	(2校合同出演) バトントワリングにも出演
	宇 部 女 子	(10)	
演 劇	県 立 華 陵	16	演目「ぼくんち」
合 唱	野 田 学 園	42	演目「きょうの陽に」アポリネールの詩による四つの無伴奏合唱曲『白鳥』
吹 奏 楽	県 立 岩 国	57	演目 舞踏詩「ラ・ヴァルス」
器楽・管弦楽	県 立 下 関 南	83	演目 歌劇<イーゴリ公>から『ダッタン人の踊り』
郷土芸能	早 鞆	15	演目 源平音頭・柱万歳
マーチングバンド	県 立 佐 波	40	演目「TRUE LOVE」～真実の愛～
バトントワリング	三 田 尻 女 子	15	演目「山口きらら2001」（2校の合同演技）
	宇 部 女 子	10	
美 術 ・ 工 芸	県 立 宇 部	1	絵画「通学路」 小中大地(2)
	県 立 萩	1	絵画「帰り道」 林 澄華(3)
	市立下関商業	2	デザイン「木々は枯れはて」藤本良平(3) 絵画「呼吸の浸透」下田 舞(3)
	県立宇部商業	1	デザイン「自然」 繁永千恵(3)
書 道	県 立 防 府	1	「臨 道因法師碑」 羽嶋優貴(3)
	県 立 防 府 西	1	「木簡」 米谷宏子(2)
	県 立 大 津	1	「臨書 木簡」 大谷幸子(3)
	野 田 学 園	1	「臨 蘭亭序」 渡辺邦夫(2)
写 真	県 立 徳 山	2	単写真「アレグロ」 溪 英俊(3) 単写真「呑みこむ学校」中野由香里(2)
	県 立 宇 部	1	組写真「Candy Sugar」 杉山美穂子(2)
	県立宇部工業	2	組写真「IT革命」藤井昭光(3) 単写真「ねえ！母さん」和田 拓(2)
囲 碁	県 立 新 南 陽	1	個人戦（男子） 小野慎吾(3)
	県立宇部商業	1	個人戦（女子） 貞政伸恵(2)
	県 立 防 府	2	団体戦(男子)宮田 良(3) 団体戦(女子)森重なずな(3)
	県 立 豊 浦	1	団体戦(男子) 工藤正英(2)
放 送	県 立 熊 毛 南	2	朗読 西村裕恵(3) アナウンス 吉岡聡美(3)
	県 立 華 陵	1	アナウンス 道源茉莉(3)
	県 立 山 口	3	朗読 青木彩子(3) アナウンス 安部杏実(3) ビデオメッセージ「シンプルイズベスト大内人形」
	県 立 岩 国	1	朗読 牧田由美子(2)
	県立山口農業	2	オーディオピクチャー「アタシは農高の牛」
将 棋	県 立 防 府	1	個人戦（男子） 近江徹哉(3)
	県 立 宇 部	3	団体戦（男子）見坂卓郎(3) 佐竹知也(3) 木下勇氣(3)
文 芸	県 立 山 口	5	文芸部誌／内山史子(2) 散文／福田優子(2) 詩／藤井結衣(2) 短歌／長谷川 薫(2) 俳句／吉谷直也(2)
総合開会式	県立宇部工業	1	越智 亮(2)
合 計		参加生徒数 316名	

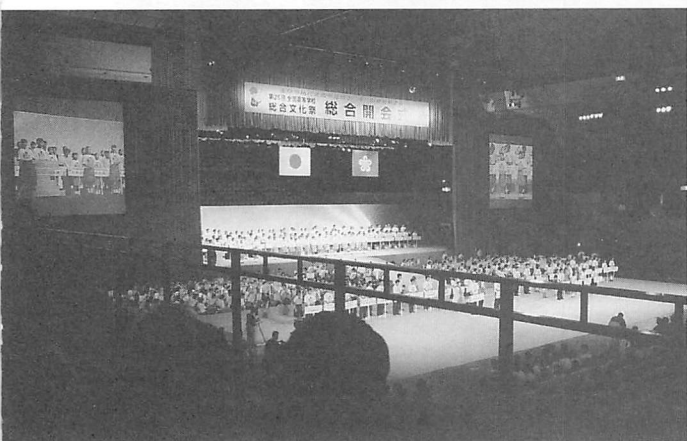


▲市街パレード

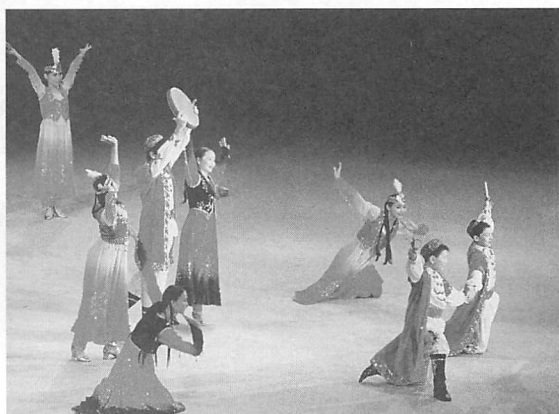
フィナーレ ▶



▼式典



▼交歓会



器楽・管弦楽部門

会場：イイヅカコスモスコモン

下関南高等学校

2年 河村悠佳

8月5日に福岡県飯塚市で行われた全国総合文化祭での舞台は、私たちにとって特別なものでした。4年ぶりの出場、さらに先輩たちとの最後の共演となったからです。

夏の暑さの中、全国での舞台に期待を膨らませ、練習に励みました。限られた時間の中での練習でありながら、音楽を楽しむことを忘れず、先生・先輩・友達が同じ仲間として、和気あいあいと充実した日々を過ごすことができました。

そして迎えた本番は、「最高」という言葉が

あてはまるものだったと思います。このメンバー最後の演奏として心に残ったし、音楽を直に感じたというか、とにかく演奏をしていて気持ちの良いものでした。

また、他校の演奏を聞いていて多くを学ぶと同時に、負けてはいられないという気持ちも芽生え、今後の練習への意欲をかきたてられました。

最後になりましたが、私たち南高管弦楽部を支えて下さった方々、そしてこのような機会を与えて下さった方々に深く感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



▲下関南高等学校

合唱部門

会場：アクロス福岡シンフォニーホール

野田学園高等学校

3年 砂田 孝浩

平成13年8月、福岡県で第25回全国高校総合文化祭が開催され、山口県代表として、私達野田学園高等学校が参加しました。

北海道から沖縄まで各県の代表校が一堂に集まるという事で、とても楽しみでもあり、私達の最高の演奏をするんだという気持ちで、練習に取り組みました。本番当日、緊張した面持ちで舞台に立ち、眩しい程のライトを浴び、本番では自分立達の“良さ”が十分発揮出来る様に歌う事に専念しました。

演奏（時間）はあっという間だったのですが、その舞台に立った人でしか味わう事の出来ない「充実感」と「達成感」を手に入れる事が出来た様に思います。

そして今回、私達がそう言った素晴らしい物を手に入れる事が出来たのも、総合文化祭を支えて下さった関係者の方々、また、ご支援を下さった方々のお陰だと思っています。心より感謝したいと思います。そして、合唱を通じて日々活動している他の学校の仲間と同じ時間を共有出来た事を嬉しく思います。

本当にありがとうございました。



▲野田学園高等学校

吹奏楽部門

会場：九州厚生年金会館

岩国高等学校

吹奏楽部部长 竹中 佳奈

平成13年8月3日から「金印の地に文化の花開き、今21世紀始まる」をテーマに福岡県で開催された全国高等学校総合文化祭に私たち岩国高校は吹奏楽部門の山口県代表として出演しました。

福岡へ向かう前日の吹奏楽コンクール山口県大会では4年連続9回目の中国大会への出場権をいただきましたが、自分たちとしては決して満足できる演奏ではありませんでした。だからこそ、総合文化祭では絶対にいい演奏をするんだという気持ちで福岡へと向かいました。

本番当日、部員たちは連日の疲れも見せず、コンクールの自由曲でもあった「ラ・ヴァルス」を力一杯演奏しました。演奏が終わると、この曲に取り組もうと決めたときからの様々の思い出が蘇るとともに、部員全員が一丸となってこ

のような大きなステージで演奏できたことの喜びで胸がいっぱいでした。

また、この総合文化祭では普段私たちが体験できないようなことがたくさんありました。中でも本番前日に特別に見学させていただいた静岡県立浜松工業高等学校のリハーサルには驚かされました。準備から片付けまでのてきぱきとした動き、明るい練習風景、そして何よりすばらしいサウンド。また、本番のステージでは各県代表校のお国柄のよく現われた、レベルの高い演奏。すべてが私たちにとって感激の連続でした。

今回この文化祭に出場するにあたり、ご指導ご協力いただきました先生方、保護者の皆様、その他関係スタッフの方々に深く感謝申し上げます。このすばらしい体験を私たちのこれからの活動に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。



▲岩国高等学校

マーチングバンド・バトントワリング部門

会場：福岡国際センター

『全総文の思い出』

山口県立佐波高等学校

3年 坪井 タ子

私は中学校まで、広島県福山市で吹奏楽部でホルンを吹いてきました。高校入学と同時に山口県に引っ越し、佐波高校に入学しました。入学式でのマーチング演奏を見たり、先生の薦めもあって、楽器演奏を続けたいと思い吹奏学部に入部しました。

ところが、この部では一年間の前半は主にマーチング、後半は吹奏楽中心という練習内容でまるで運動部のような毎日が始まりました。やってみると、最初は何もわからなかったのに、皆でそろって機敏な動作の練習を、ゲームを混じえて反復しているうちに、全員の足の高さがそろった時のハイステップなど、見ている方も感動するものだということがわかってきました。

しかし、楽器の方は、私がこれまで吹いてきたフレンチホルンは吹奏楽の時だけ使い、マーチングホルンという、トランペットがひとまわり大きくなったような重い楽器に変わりました。

その上、二年になると、楽器編成の都合で私はトランペットにパート替え、そしてまた三年ではホルンに戻る、という風に、何人かの部員が何パートもの間を行ったり来りということがあり、その度に苦勞してフィンガリングを覚え直しました。

覚えるといえば、マーチングでは、楽譜を全て覚え、音楽に合わせた個人個人の動作を覚え、さらに演技全体が今どう動き何を表現したいのか、ということも頭に入れなくてはなりません。先生がいつも「マーチングをすれば、頭も身体も心も丈夫になる」と言ってこられた意味は、こういう繰り返しの成果だと思います。振り返ってみると、私が入部した頃、先輩達皆が話題にしていた「全総文」とは、一体何のことなのか、全くわかりませんでした。三年生になって私は部長になり、夏に福岡で行われる全国高等学校総合文化祭に出場することを自覚した時、先輩達の口にしていたことが、やっと理解できました。そしてこの夏まで、苦しい練習を続け

てきました。

そして8月3日。パレードに参加するために、三田尻女子高校・宇部女子高校のバトントワリング部のみなさんと一緒に福岡に行きました。全国から集まったマーチング仲間の人数の多さにまず圧倒され、また、他校のみんなの練習の様子を見て、その機敏さにただただ驚くばかりでした。真夏の炎天下に福岡市街をパレードするのはとても苦しく、意識がもうろうとするほどだったけれど、大道路いっばいに広がり、沢山の方々に見てもらいながらの、とても気持ちの良い体験でした。

二日目の交流会では、全国から集まった2,000人の仲間と、マーチングを通して友達になったこと、マーチングの輪が広がったことが本当に嬉しかったです。

いよいよ三日目。私達にとって一番重要なマーチング発表の時は、ものすごく緊張しましたが、本番が始まると、なぜか気持ちが楽になっていくのを感じました。前日の交流会によって、会場の中の高校生達の心が、一つのマーチング仲間として通い合っていたからかも知れません。今でもはっきりと思い出せる瞬間でした。

私は、高校卒業後、もう二度とマーチングをする機会はないかもしれない……。しかし、この日の思い出は、一生忘れられない宝物になると思います。これから先、マーチングの素晴らしさ、楽しさを忘れないようにするとともに、この素晴らしいマーチングを多くの人達に伝えていきたいと思います。

最高の思い出を、ありがとう!!



▲佐波高等学校

日本音楽部門

会場：戸畑市民会館

早鞆高等学校 3年 堀田 智佳

今回、初出場でこの大会に臨んで一番強く感じたことは、県の総合文化祭と違い各出場校の演技のレベルの高さとその迫力です。今まで他の太鼓の演奏を見るという機会もなく、また山口県内での出演のみであったため、発表において学校が変わる度に驚くばかりでした。

各学校ともオリジナリティのあるものや昔から伝わるものもあり、自分達の演奏にも何か変化を与えるきっかけとなりました。ただ、少し気持ちの上で初出場ということもあり緊張していましたが、演奏する番には今までの練習以上の成果が上げられたと感じています。

今回の大会を通じて、新しいものを取り入れオリジナルの演奏を作るという考え方も今の時代には必要である思いましたが、私たち平家太鼓部は地域にある伝統を受け継ぎ守っていくという現代の人になくなりかけた昔からの考え方、郷土芸能としての平家太鼓を後輩達へ伝えていこうと考えています。今回の出場にあたり多くの方々の協力に感謝いたします。

早鞆高等学校 3年 林 加恵

高校時代の最初で最後の最大の思い出というのが、この全国高等学校総合文化祭でした。

前日、私達早鞆高等学校は開催地から少し離れた場所、小倉に一泊しました。明日が本番と思うと少し胸がざわつきました。しかし、そのざわつきも部活の仲間とたわいのない話をしているといつの間にか消え去っていました。

本番直前、他校のレベルの高さに驚きました。が私は思っていたよりも緊張していませんでした。今考えると本番直前の時はもう、他校よりも勝りたいという気持ちよりも、他校に私達の伝統芸能を見てもらいたいという気持ちになっていたと思います。だから、たたき終えた後もまだまだたたいていたいと思いました。

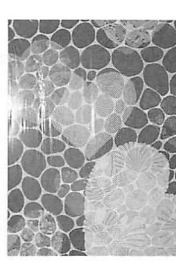
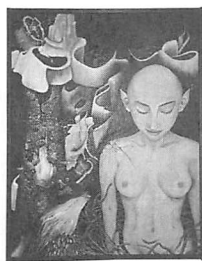
私達がこの全国高等学校総合文化祭に山口県代表として出場できたのは、これまでこの部活をつくり上げてくれた卒業生のみなさん、そして今の在校生、先生方みんなの力だと思います。山口県代表として選んでいただき本当にありがとうございました。



▲
◀ 早鞆高等学校

美術・工芸部門

会場：福岡県立美術館



今回、全国総文祭福岡大会に参加した5名のみなさんから、感想をいただいています。全国の作品が集う中、それらの作品群を前にし、動かされた心の模様を伝えます。

出品作品 『呼吸の浸透』 絵画

下関商業高等学校 3年 下田 舞

会場に行った私は、全身が熱くなりました。一つ一つの作品と向き合うたびに、絵の方から私に語りかけてきたのです。なにも感じられない作品はなく、心に様々な感情が生まれました。あの感動は忘れることはできません。これ以上の感動が与えられる作品を描くことを目標に、制作していきたいと思います。

出品作品 『帰り道』 絵画

萩高等学校 3年 林 澄華

福岡会場では、参加した高校生同士で班をつくり、出品作品をお互いに批評し合いました。同年代の生徒が何を感じ、どんな気持ちで作品を制作したのかを知ることは、私にとって大きな勉強になりました。また、班ごとで他の生徒の作品を鑑賞する時に、自分とは違った視点や価値観をお互いに持っていることに気付くことができたのは嬉しいことでした。

出品作品 『通学路』 絵画

宇部高等学校 2年 小中大地

今回の大会参加は、私にとって、とても良い

刺激になったと思います。やはり全国大会というだけあって、そのレベルはすごいものでした。力強いもの、繊細なものなど、その表現方法は違えど、それぞれに訴えるものがあつたように思います。そんな優れた作品を前にし、自分の絵に足りないものを感じ取ることができました。本当にいい思い出になりました。

出品作品 『自然』 デザイン

宇部商業高等学校 3年 繁永千恵

全国総文祭に参加でき、とても嬉しく思っています。全国から集まった作品を見て、多くの色々な個性、技術、表現力を感じることができ、私自信の絵に対する視野を広げることができました。私にとって、今大会に参加したことは、とてもよい刺激になったと思います。この貴重な経験を生かして、今後も作品制作に励みたいと思います。

出品作品 『木々は枯れはて』 デザイン

下関商業高等学校 3年 藤本良平

会場に行っても自分が何をするというわけでもなかったので、なんとなく手持ちぶさただったのを覚えています。今までデザインといえば「ベタ塗」という先入観を持っていた自分にとって全国から集まった斬新なアイデアは良い刺激になったと思います。良い経験でした。

書道部門

会場：福岡市美術館

防府高等学校 3年 羽嶋優貴

全国大会への参加は私にとって、自分を見つめ直す良い機会になったと思います。まず、作品のレベルの高さと多様性に驚きました。古典の全臨や創作など、高校生だからこそ表現できる生き生きとした作品ばかりで、見るものすべてが勉強になり、目の前に新しい世界が広がったようでした。しかしそれは、自分の未熟さを感じた瞬間でもありました。というのも、2日目の交流会ではその場で出された課題を書き上げるということをしたのですが、私には初めての経験でおろおろするばかりでした。対して他県の出場者は思い思いに作品を仕上げ、その筆運びは自信に満ちたものでした。そして私には自信も、技術も表現力もまだまだ十分ではないと思い知らされました。と同時に「もっと書きたい、様々な書に挑戦し、学びたい」と感じるようになりました。このような気持ちに気が付き素晴らしい経験ができたのも、指導して下さいった先生方やバックアップして下さいった高文連の方々のおかげだと感謝しています。ありがとうございます。

防府西高等学校 2年 米谷宏子

全国大会に参加したことで、書道に対する考え方や見方、表現方法が変わりました。私と同じ高校生が書いた作品とは思えないものばかりで、自分の作品に自信が持てませんでした。作品をみるだけではなく、交流会では各班に別れて活動しました。創作してみんなで意見を言い合いました。班の中では、学年を問わず仲良くなれました。

私は全国大会に参加できたことを本当にありがたいと思います。もちろん書道の技術ですが、他の県の人と出会ったり、交流したりと自分を再認識する機会でもありました。今までに経験したことがないものだったので私には良い刺激となりました。これからは、この全国大会のことを振り返り、自分の励みにしたいと思います。そして、もっともっと書道の世界を広げて、目や手でたくさんのことを吸収していきたいです。本当に勉強になりました。

大津高等学校 3年 大谷幸子

この総文祭は私の中で本当に貴重なものとなりました。全国の人達の作品を身近に見て、臨書から創作まで、字の形や構成などに、今まで自分が見たこともないような技法の工夫があって、その圧倒されるようなすばらしさに、書道に関して少し天狗になりかけていた自分の鼻を見事にへし折られた気分になり、自分の作品の前に立つと、なんて未熟なんだと、正直、落胆してしまった程でした。

交流会では初めての創作を体験し、すらすらと書いていく周りの人を見て、同世代にはこんなにすごい人達がいたのかと感動してしまいました。あと、福岡の高校生が盛り上げてくれたおかげで、少しも緊張せず、楽しい時が過ぎたことを、本当に感謝しています。

総文祭では沢山のことを体験し、それを自分の中に吸収できたと思います。これからもこれを生かして、もっと沢山のことに挑戦していきたいです。

野田学園高等学校 2年 渡辺邦夫

全国総合文化祭に参加して、普段している書を「書く」という行為ではなく、書を「見る」ということが出来、本当に良かったと思います。

この大会で一番驚いたことは、展示してある作品のレベルがとても高いことでした。作品のほとんどが、高校生が書いたとは思えないような素晴らしい出来のものばかりでした。

作品そのものは、漢字・漢字かな交じり・かなといったものがあり、バラエティに富んでいて、どれも興味深いものでした。印象に残っているものは、少字数の太い線でダイナミックに書かれていた作品です。この作風の作品が、思っていたより多かったことにも驚きました。また、多くの展示してある作品を見て、自分の未熟さを改めて感じました。

この大会で感じたことを忘れずに、人を引き付けられる作品を作れるように、これからも練習を重ねていきたいと思っています。

写真部門

会場：福岡アジア美術館

徳山高等学校 3年 溪 英俊

平成13年の夏、福岡県で開催された第25回全国高等学校総合文化祭に参加することになりました。僕たち徳山高校写真部は、全国大会参加のため、2泊3日の研修旅行を計画しました。しかし部費が少ないので大きな宿泊施設に泊まることはできません。『よし、ここは一発、とことん貧乏旅行をしてやろう』ということで、テント持参、ひとつだけ女子用にバンガローを借りて宿泊することになりました。

8月3日。金曜日ということもあり、そのこのキャンプ場は僕たちの貸し切り状態でした。到着するとすぐに晩御飯の準備です。メニューはカレー。高校生にもなると、飯盒炊飯は久しぶりで、かなり手間取りながらの作業。しかし、童心に返り、とても楽しい作業でした。

8月4日。撮影会。会場となった太宰府天満宮とその周辺で、一人一本のフィルムを使い撮影していきました。36枚という制限の中、自分の思うままにスナップしていきました。お互いにモデルをしあったり、観光客に声をかけたりしながら、あっという間にフィルムを使い切りました。午後、元写真部の先輩と合流、一緒に作品展示を見て回り、食事をしました。写真のこと、進学のこと、いろいろな話が聞けて、とても有意義な時間を過ごすことができました。

8月5日。昨日撮影したフィルムの講評会。どんどんスライドが切り替わり、自分の番が近づいてきます。パッと、自分の作品が大きく引き伸ばされて映し出されました。ほんの数秒のことなのに、とても長く感じました。この講評会では、ほかの人の作品を見て感心する事しき

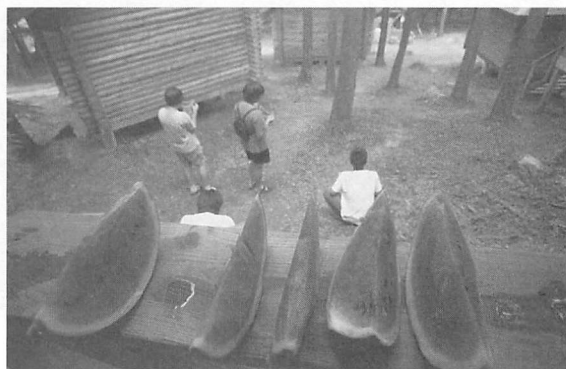
りでした。大胆かつ繊細に切り取られたフレーミング。細部まで考えられた配色等、これから自分の作品に活かせる事、活かすべき事をたくさん学び取ることができました。

会場となった福岡アジア美術館はとても美しく、このような場所に自分の作品を飾っていただけたことを、とてもうれしく思っています。

全国大会参加は僕の高校生活最後にして最大かつ最高のイベントでした。思えば高校生活の中で一番楽しく、充実していた夏だったように思います。

あれほどに広い会場で、あれだけたくさんの人数による撮影会、講評会等と、たくさんの準備をしてくださった方々、いろいろなお世話をしてくださった方々、本当にありがとうございました。最高の3日間でした！！

徳山高校写真部が、来年も、再来年も全国に参加し、後輩たちが僕と同じような感動を得られることを願いながら、この大会へ参加できた喜びと楽しさを基盤に、写真撮影や写真鑑賞を、僕の生涯の趣味として大切にしていきたいと思っています。写真は僕の宝です。



囲碁部門

会場：クローバープラザ

理事長 **井 町 頼 信**
(萩高等学校教諭)

第25回全国高校総文祭囲碁部門第14回大会は平成13年8月6日（月）～7日（火）福岡県春日市クローバープラザにて開催されました。団体戦は各都道府県から選抜された、男子2名、女子1名計3名の混成チーム編成で44チーム、個人戦は男女各1名ずつで、男子44名、女子42名合計218名の参加がありました。

競技は団体戦・個人戦ともオール互先のスイス方式でおこなわれました。全団体・全個人が必ず6回戦うという方式です。初日は開会式後4回戦い、2日目は残りの2回を戦いました。団体戦・男女個人戦ともに同時進行で行なわれました。試合は、勝者同士を組み合わせさせていきますので星の潰し合いになります。

全国大会はやはりレベルが高く、破壊力のある白石君（東京代表）などを見ることができて非常に刺激を受けました。

山口県からは、個人戦に小野慎吾（新南陽高校）、貞政伸恵（宇部商業高校）、団体戦に宮田良（防府高校）、工藤正英（豊浦高校）、森重なずな（防府高校）の5名が参加しました。戦績は次の通りです。

<個人戦>

小野 慎吾	5勝1敗	3位
貞政 伸恵	4勝2敗	13位

<団体戦>

宮田 良	}	3勝3敗	17位
工藤 正英			
森重なずな			

団体選は一番成績が振るわない結果となりました。山口県は個人戦を主力に考えていますので個人戦は良い成績を残しています。特に小野君は、昨年の6位より今年は3位へと、棋力をアップさせたことが窺われます。

囲碁は、棋力も大切ですが、高度な遊びを通して交流があるところに大きな喜びがあります。



▲左から2人目 小野君
右から2人目 全国トップの白石君と対戦

演劇部門

会場：福岡サンパレスホール



華陵高等学校 舞台芸術部顧問 石田千晶

地区大会から全高総文祭、優秀校東京公演と続いた演劇漬けの一年で多くのものを得た。

演劇は、社会問題の考察、脚本の解釈、役作り、舞台装置、衣装、音響、照明等様々なアプローチを必要とする。キャストはどんな役でもこなせる柔軟で敏捷で持久力のある体とどんなホールでも届く大きな声が要求される。「自分の思いを届けたい」だけで、「ぼくんち」を創ってきた私たちには課題が山積みだった。大ホールに応じた大道具、照明の再考、発声法の修得。資金繰りも厳しかった。そして何より長い期間気持ちを維持することが難しかった。演劇で大会を勝ち抜くことがこれ程大変なことだとは思ひもしなかった。

しかし、間違いなく苦労以上のものを得た。芝居創りでは、お互いの価値観の違いを知り、役作りを通して様々な境遇の人の思いを考えた。部内の葛藤から、話し合うことの大切さを知った。多くの出会い。最高の設備。大きなホール。プロのスタッフの厳しさ。観客との一体感。目の肥えた観客が絶妙のタイミングで反応してくれる心地よさ。審査員の的確な指導、激励。人によってこんなにも見方が違うのかと驚かされた。観客の感想には厳しい忠告や共感し合えなかった哀しいコメントもあったが、「心から笑った」「思わず泣いた」「大好きだ」の言葉に大いに勇気づけられた。

幕が下りる直前、涙が溢れて最後のシーンが見届けられなかった。心から、全国大会に出場できた幸運と支えてくださった多くの方々に感謝せずにはいらなかった。

梨花役 伊藤文子（2年）（新部長）

全国総合文化祭は、福岡サンパレスという大きなホールで行われました。何よりも感激したのは、運営してくれた生徒の皆さんの働きです。受付、舞台装置の搬入、進行すべて生徒の手によるものでした。上演校の皆さんも気合いの入り方が違って、本当に心地よい緊張感を与えてもらいました。他校の上演を見るうちに、その素晴らしさに圧倒されて、「上手に演じることより、悔いが残らないように演じること」に全力を傾けよう」と覚悟できました。「こんなチャンスに恵まれた私たちは本当に幸せなのだから」と。それが優秀賞受賞という結果につながったのだと思います。

演劇を通して自分と他人について考える機会ができました。また、冷静に物事の状況を見つめて、自分ならどう行動することができるかを考えることも学びました。自分を見つめることは、時として辛いこともあります。とても大切な事だと感じています。素晴らしい仲間と出会えて、個性のぶつかりをプラスに変えて、一つの劇という形にできたことをとても幸せだと思います。この間学んだことをどれだけ将来に生かせるでしょうか大人になることは、冷めた見方を持つことではなくて、集団の中で自分のポジションを見つけ、自信を持ち、責任を持って自分の役割を果たしていくことだと思います。私達は、小学校の頃から、教科書通りに読むこと、間違いをしないことが良い子の条件だと教えられてきました。でも、自分の感情表現を豊かにすることから他人を理解することが始まっていくと思います。広い心を持つ必要性を教えてくれたのが、演劇でした。

全国大会では、多くの方にアドバイスをいただき、たくさんすばらしい劇に出会い、たくさんの友人を得ました。今でも夢かと思うほどです。山口県他校の演劇部の皆さんにもこの感動を味わってほしいです。

放送部門

会場：北九州国際会議場

山口農業高等学校 3年 重政貞男

今回の全国高文連大会は安田さんの朗読を聞くことができたり、多くの人や作品にも出会えとてもいい経験をさせてもらいました。それに、山口農業高校の作品『アタシは農高の牛』を発表することができました。

この作品は山口農業高校にいる肉牛は、雌牛か去勢した雄牛しかないということに目をつけ作品にすることを決めました。ホルスタインと黒毛和種との混血であるF1、肉牛のサラブレッドである黒毛和種が出てきて、知られざる出生の秘密や食生活等を擬人化することで面白可笑しく分かりやすく会話調で仕立てたお話しです。

作品を作るとき一番始めに考えることは、「何か面白い物を作りたい」ということです。聞き手が楽しめるということはあくまでも結果で、まず作る側が楽しまなければ面白くないはずで、なぜなら作り手が不愉快な気持ちで作れば自ずと作品に出てくるからだと思います。聞き手はこういう事に敏感ですぐに気付かれたりします。だからと言うわけではありませんが、やはり物作りとは楽しくが基本ではないでしょうか。それを証明するように部員達は遊び感覚で楽しみながら作っているような気がします。さらに、農業をテーマにすることで農業高校のことを聞いてくれる人に知ってもらい、まさに一石二鳥ではないでしょうか。

物を作るということは安産ではないときもあります。物ができたとしても予期せぬ事も起こ

ったりもします。この作品を作る時にも色々な事がありました。テーマを決めるまではストレートに進みましたが、ストーリーや細々とした内容を決めるとなると部員達それぞれの主張やこだわりがあり、頻繁に意見の衝突がありました。時には、意見の言い合いでその日が終わったときもありました。それでも少しずつではありますが作品に近づき、あらすじを作っては叩き台にするという事を続けていき作品が出来上がっていきます。

苦労が多いほど出来上がったときの感動が大きいのはよくある話です。『アタシは農高の牛』も全国の人達に聞いてもらい会場の人達も、スタッフの人達も笑ってくれました。さらに、閉会行事の映像にも使ってもらい、作り手にとってはとても嬉しく感動した反面、個人的には黒毛の役をしていたということもあり、なんだか恥ずかしい気もしました。

大会とは多くの人が集まり、色々な物の見方、感じ方、表現の仕方があり、新鮮な感動もあり収穫も多いはずで、全国高文連大会で受けた感動を忘れずこれから役立てていきたいと思っています。この時期の経験は一生の物になると思います。経験豊かなことは決して悪いことではありません。この感動を多くの人が感じることができるように願うとともに、この新鮮さをいつまでも大切にしていきたいです。

将棋部門

会場：西日本総合展示場

理事長 **弘 中 敏 之**
(防府商業高等学校教諭)

常任理事 **岡 茂 樹**
(防府高等学校教諭)

第25回全国高校総合文化祭将棋部門兼第37回全国高等学校将棋選手権大会は、8月4日(土)から5日(日)にかけて福岡県北九州市西日本総合展示場新館で開催されました。会場は従来の大会の中では最も広く、選手の立場によく配慮された運営がなされ、本県の選手も気持ち良く対局することができたのではないかと思います。また、スタッフも現地の高校生が積極的に係わりおり私への応対も親切で好感がもてました。対局の様子や結果については右の報告のとおりです。

また、4日に当会場で行われた全国将棋専門部の理事長会議では、来年度より主催・共催団体が変わるため、当部門大会の運営にも大きな変更が生じることが論議されました。

今年は例年のような結果は得られませんでした。宇部高校の卒業生が応援に来場したり、福岡県の選手団と本県の選手団の交流が深まり卒業後の再会を約束し合ったりといったタテとヨコの友情や連帯感が育まれた素晴らしい大会だったように思います。主管の諸先生方や生徒の皆さんに感謝するとともに、今後は女子の普及も含め、県内高校将棋の更なる発展に繋がるよう、福岡で得た経験を活かしたいと思います。

第25回全国高校総合文化祭将棋部門が、8月4・5日の2日間、北九州市で行われた。全国大会とはいえ、隣県だったので、小倉までは近いもの。作戦を練っている間に無事到着。しかしそこから宿までが遠かった。タクシーで延々15分。駅からとっても遠い「一風館」ばりの宿に2泊した。

山口県選手の戦績は次の通りです。

＜男子団体＞

宇部高校 (見坂卓郎・佐竹知也・木下勇氣)

1回戦 大阪星光学院 (大阪) … 3敗 負け

＜男子個人＞ 近江徹哉 (防府高校)

1回戦 大越誠 (福井県足羽高校) … 負け

男子団体は、前年優勝の大阪星光といきなり激突。3選手とも優勢な場面があり優勝候補を慌てさせたのだが、優勝メンバー2人が残る星光学園は勝負強く、結局勝ち切ることはできなかった。また、前年活躍の防府高校近江君も、必勝の将棋だったが、銀を打つところを歩で済ませてしまい大逆転負け。大変残念な結果だった。3年生4人が出場した県勢だが、来年以降後輩の活躍に期待したい。



山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(1)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
1	安 下 庄	63				平 7	平 4 平10		
2	久 賀	63					平 3	平10	
3	岩 国								平 1
4	岩 国 総 合						平11		平 1
5	岩 国 商 業			平 3				62	
6	岩 国 工 業						平 2	平 6 平8	
7	坂 上			63	平11		平 5	平 3	
8	広 瀬		※	63					
9	高 森						平 2		
10	柳 井						平 7	平11	
11	柳 井 商 業						平11	※	
12	柳 井 工 業						※	平1平4平11	
13	熊 毛 南	63					平 6	平12	
14	田 布 施 農 業						平 3	平 5	
15	田 布 施 工 業								
16	光	63					平 8		
17	光 丘						平 8 平11	※	
18	熊 毛 北						平 2 ※	63 平 7	
19	下 松	63			平12	平 7			
20	華 陵	63					平 8	平 1	
21	下 松 工 業						平 1		
22	徳 山		定平4		定平10	定平8		平12	
23	徳 山 北		63				平 4 平11	平 8	
24	徳 山 商 業		平 5	63				平 3	
25	徳 山 工 業							平 4 平 7	平 1
26	鹿 野		平 3		平10		平9	平 1	
27	新 南 陽	63						平 5 ※	
28	南 陽 工 業		平 1				62		
29	佐 波			63		平 7			
30	防 府								
31	防 府 西						平10		平 1
32	防 府 商 業		定63				平12	平 6	平 1
33	山 口		定62				平 2		
34	山 口 中 央	63	平12		平10	平13			
35	西 京	62					平 4	平 7	
36	山 口 農 業						平 5	平 3	
37	宇 部	63							
38	宇 部 中 央		定平 1			※定	平10	63	
39	宇 部 西						※	平10	
40	宇 部 商 業			63			62平 6	平 3	
41	宇 部 工 業		平13	平 2			平 8		
42	小 野 田		定63						
43	小 野 田 工 業		定63					平 4	
44	厚 狭			平 1				平 9	
45	美 祢	62			平9		平 4	平 2	
46	大 嶺		平 4					63平13	
47	美 祢 工 業						63	平10	

ピアノ……………弘中 孝
マリンバ……………水野与旨久
フルート……………西田直孝トリオ
トランペット…田宮堅二

胡弓……………姜建華・楊宝元
尺八と箏………中村明一、八木美知依
オベレッタ…木月京子 ひとりオペラ
交響楽団………山口県交響楽団

演劇……………のんた・宇部芸術座・海峡座
金管合奏………東京金管五重奏団
(注) <62～平13………実施年度>
<※印……………平成14年度実施予定>

山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

(2)

番号	学校 \ 事業	ピアノ	マリンバ	フルート	胡弓 トランペット	尺八と箏 オベレッタ	交響楽団	演 劇	金管合奏
48	田 部						平 1 平13		
49	西 市						63		
50	豊 浦								
51	長 府								平1
52	下 関 西								
53	下 関 南								
54	下 関 第 一							平 5	
55	下関中央工業						平12	平 6	
56	下 関 工 業	62						平 2	
57	響		平 5				平 1		
58	豊 北	62					平 3		
59	日 置 農 業	63	平 5			平 9		平 2 平13	
60	大 津	63					平12	平 5	
61	水 産						平12		
62	萩	63					平 3	平 6	
63	萩 商 業	63					平 7	平 2 平12	
64	萩 工 業						平 6	平 4 平 9	
65	徳 佐			分 63			63平10	平13	
66	奈 古				平11		平 1 平 9		
67	盲	63	平 3			平 8 平10	平 7	平 1	
68	聾								
69	岩 国 養 護		平 3 平13					平10	
70	田 布 施 養 護		平 6				62		
71	徳 山 養 護		平11	平 1					
72	周 南 養 護								
73	防 府 養 護	62	平 3	63	平12				
74	山 口 養 護						※		
75	宇 部 養 護		63平 5 ※				平 1 平 9		
76	下 関 養 護		平 2 平 6						
77	豊 浦 養 護		平11			平13			
78	萩 養 護		平 6						
79	下 関 商 業				※定				
80	高 水							62	
81	柳 井 学 園		平 6					63	
82	聖 光						平 2		
83	山口県桜ヶ丘								
84	三 田 尻 女 子							平 7 平 9	
85	多々良学園								
86	中 村 女 子	63					平 2 平 5	平11	
87	野 田 学 園	63							
88	山 口 県 鴻 城						平10	平12	
89	宇 部 鴻 城						平 7	平 9	
90	慶 進								
91	美 祢 中 央								
92	香 川						平 1 平 5	平11	
93	サ ビ エ ル								
94	早 鞆								
95	下関短期大学付属	62 63	平 4			平 7		平 8	
96	長 門						平 6		
97	萩 光 塩 学 園								

(注) <62～平13……実施年度><※印……平成14年度実施予定>

《自主事業》巡回演劇公演

＜宇部芸術座＞

『レ・ミゼラブル 銀の燭台』を観て

大嶺高等学校 2年 高見由佳

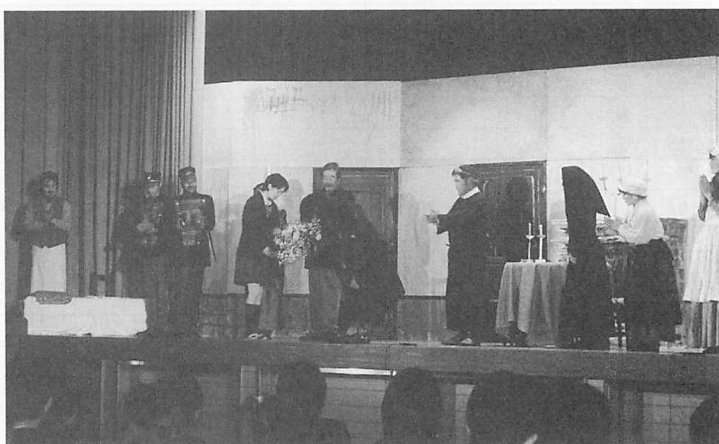
私は、この話を知らなかったのでとても楽しみにしていました。まず、一番最初に思ったことは、出演者の皆さんの声が素晴らしかったことです。目を閉じていても伝わってくる感情や表現の仕方に感動しました。この『銀の燭台』という作品は人間の心をうつしだしたものでした。司教さまの心の広さや主人公の苦悩など、現実にもありそうな内容でした。

私は、この司教さまは本当に優しくすぎてこわいくらいでした。私は、そこまで他人に優しくできないなあと思いました。

やっぱり、犯罪を犯したことを責めるだろうし、自分の物が盗まれたことに対して、怒りしか沸いてこな

いと思います。でも、この話から学んだこと、それは罪を犯した人は罪を犯してしまった理由があることです。罪は許されないけど、もし自分がその立場だったらという、相手の気持ちを考えることです。

まずは、そのことから始めていきたいです。こういう公演はあまり体験できるものではないので今日は貴重な体験をしたなあと思いました。



《自主事業》山口県交響楽団演奏会

6月23日／田部高等学校（会場：菊川町ふれあい会館）



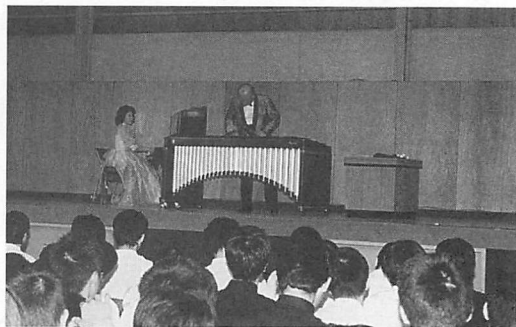
《自主事業》水野与旨久マリンバコンサート

『マリンバコンサート』を鑑賞して

宇部工業高等学校

電子機械科 2年 林 昭宏

今日の演奏でマリンバ楽器をはじめて聴きました。マリンバというものであそこまできれいな音色がでるとは思ってもみませんでした。ピアノの音といっしょになるととても幻想的な音になり、なんだか音の世界に引きずりこまれたような気がしました。目には見えていない音というものの、それがまるで生を受けて、そこら辺を飛び回ったり遊んでいたたりしている、そんなふうに感じました。ピアノの音もマリンバを引き立ててはいますが、同時に自分も主張しているようでした。このピアノがマリンバの持つ幻想的な音をさらに引き立てて私達の心の中に響



いていた、そんな気がしてなりませんでした。

ビートルズの曲は個人的にはレット・イット・ビーが好きですが、演奏された二曲も好きだったのでとても心に残りました。

またこのような機会があれば、ぜひマリンバを聴いてみたいです。

《自主事業》尺八と琴のコンサート

『日本の音に触れて』

山口中央高等学校 1年 三浦早織

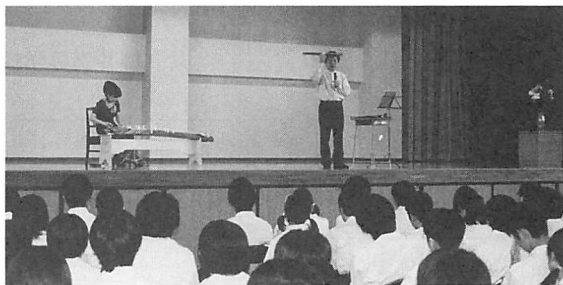
「春の海」を一番始めに聴いたのに、今書いていても耳を離れず、とても印象に残っています。私は中学校のときに、町の文化ホールで、何度か琴や尺八を聴いたことがあるのですが、2つを同時に聴く機会は無かったので、とても新鮮な気持ちで聴くことができました。

琴や尺八は、日本独自の楽器だと思っていたのですが、実際琴は中国生まれだという事が分かり、少し驚きました。

私は、いつも聴いている方なのですが、もっと自分の住んでいる文化には、おもしろさや深みがあるのではないかと思います。だから、もっと日本の文化、それも昔の文化に触れる事

で、日本の歴史を知り、多くの外国人へ、このすばらしい日本の文化を教えてあげたいとおもいます。今日は素敵な音色を体全体で感ずることができました。また、これから自分の興味関心を深めて行きたいと思います。

素川さんや松村さんのように、人の心に感動を伝えるすばらしい人になりたいと思います。



第3回 高校生文芸道場中国大会（岡山大会）

11月10日／新見市文化交流館・生涯学習センター「まなび広場にいみ」

山口県より生徒18名教職員5名参加



《舞台芸術》 ふれあい教室

（文化庁主催）

松山バレエ団公演

10月31日／
宇部中央高校



第16回全国高等学校文芸コンクール 受賞作品（山口県）

詩部門	優秀賞	県立柳井高等学校	2年	田中 幸恵	ねこばば
文芸部誌	奨励賞	県立山口高等学校	文芸部		無蓋車

平成13年度 山口県高等学校文化連盟【事業報告書】

月	日	事	業	会 場
4	12 18		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	11 14 17 22 27	水野与旨久マリンバコンサート 水野与旨久マリンバコンサート 県高校総合文化祭（将棋）	高文連評議員会 平成13年度第1回社団法人全国高等学校文化連盟総会	徳山市 岩国養護学校 宇部工業高校 東京都フロラシオン青山 中国新聞社山口支社
6	8 11 12 14 15 16～17 17 21 23	平成12年度「高文連」発行 尺八と琴のコンサート 尺八と琴のコンサート 巡回演劇「劇団海峡座」 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭（器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・パントフリング） 県高校総合文化祭（日本音楽、吟詠） 巡回演劇「劇団のんた」 山口県交響楽団演奏会		山口中央高校 豊浦養護学校 日置農業高校 宇部市渡辺翁記念会館 宇部市渡辺翁記念会館 下関市文化会館 徳佐高校 田部高校
7	6		中国地区高文連関係者合同会議	松江市
8	3～7 6 25～26	全国高校総合文化祭 第12回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	社団法人全国高等学校文化連盟各専門部会 社団法人全国高等学校文化連盟総会	福岡県 福岡県 東京都 国立劇場
10	26 27～28 28 31	巡回演劇「宇部芸術座」 県高校総合文化祭（演劇） 県高校総合文化祭（囲碁） 舞台芸術ふれあい教室（バレエ）		大嶺高校 宇部市渡辺翁記念会館 萩高校 宇部中央高校
11	4 7 10	県高校総合文化祭（放送） 第3回高校生文芸道場中国ブロック大会	第1回高文連理事長会	ニューメディアプラザ山口 山口中央高校 岡山県新見市
12	25～26	第3回高校生文芸道場総合大会		東京都
1	17～18 18～20 25～27	県高校総合文化祭（美術・工芸、書道、写真） 第10回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	第13回全国高等学校文化連盟研究大会	千葉県千葉市 下関市立美術館 大阪府大阪市
2	7 8 15 16	平成13年度「高文連会報」発行	平成13年度第2回社団法人全国高等学校文化連盟総会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 山口中央高校 山口中央高校
3	16 29	舞台芸術ふれあい教室（バレエ） 第21回器楽管弦楽スプリングコンサート		山口中央高校 下関市文化会館
【その他】 県高校総合文化祭準備（実行）委員会 総合開会式・音楽関係4部門（宇部西高校） 展示関係3部門（下関西高校） 日本音楽、吟詠剣詩舞部門（早瀬高校） 演劇部門（宇部中央高校） 囲碁部門（萩高校） 放送部門（山口農業高校） 将棋部門（防府商業高校） 各専門部会 各専門部研修会				
				主管校において開催予定
				部会長校を中心に開催予定
				県下各地において開催予定

山口県高等学校文化連盟

【共催】	第5回やまぐち県民文化祭・第40回山口県吹奏楽コンクール 第5回やまぐち県民文化祭・第56回合唱コンクール山口県大会 第25回アンサンブルコンテスト山口県大会
【後援】	第7回山口県盲・聾・養護学校文化祭美術作品展示会 第14回日本マーチングフェスティバル山口県大会

平成13年度 山口県高等学校文化連盟会計【決算書】

〔収入の部〕

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	3,249,460	3,249,460	0	
会 費	17,208,750 (内訳) 17,011,050 67,500 130,200	16,719,200 (内訳) 16,517,550 72,150 129,500	△ 489,550 (内訳) △ 493,500 4,650 △ 700	全日制 350円×47,193人 定時制・盲・聾・養 50円×1,443人 学校負担金 100円×1,295学級
補 助 金	6,080,000 (内訳) 1,570,000 300,000 4,210,000 0	6,230,000 (内訳) 1,570,000 300,000 4,210,000 150,000	150,000 (内訳) 0 0 0 150,000	県総文祭県補助金 宇部市補助金 全総文祭県補助金 教育財団助成金
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	12,790	62,581	49,791	利息・全国高等学校賛助会費
合 計	26,551,000	26,261,241	△ 289,759	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	決 算 額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	759,000	765,421	△ 6,421	
事務用品費	(内訳) 200,000	(内訳) 165,069	(内訳) 34,931	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	300,000	312,752	△ 12,752	電話 郵便等
分 担 金	259,000	287,600	△ 28,600	中国高文連分担金 全国高文連分担金
〔会 議 費〕	1,881,000	1,492,757	388,243	県内会議 全国会議 事務局旅費 監査旅費
〔事 業 費〕	17,066,000	15,910,221	1,155,779	
県 総 文 祭	(内訳) 8,326,000	(内訳) 8,242,575	(内訳) 83,425	総合開会式 各部門大会開催費(別紙)
全 総 文 祭	4,331,000	3,579,094	751,906	生徒旅費263万 引率教員旅費42万 運送費51万
自 主 事 業	1,494,000	1,494,000	0	8公演
大会補助金	50,000	50,000	0	高文連(特殊教育)
専門部会費	1,685,000	1,421,052	263,948	研修費 通信費
印 刷 費	1,180,000	1,123,500	56,500	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 他
〔調 整 基 金〕	2,500,000	2,500,000	0	
〔予 備 費〕	4,345,000	639,833	3,705,167	事務機器 全総文個人 文芸道場 賛助会費
合 計	26,551,000	21,308,232	5,242,768	

(収入) 26,261,241円 - (支出) 21,308,232円 = (繰越) 4,953,009円

平成13年度 調整基金会計決算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計から繰入	今年度末残高
10,500,000	2,500,000	13,000,000

上記の通り相違ありません。

平成14年 4月11日

監事

田 口 勝 海 岡

監事

中 村 行 宣

平成14年度 山口県高等学校文化連盟【事業計画】

月	日	事	業	会 場
4	11 17		会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	10 14 17 (中旬) 23 26 28 29 29	水野与旨久マリンバコンサート 水野与旨久マリンバコンサート 平成13年度「高文連」発行 姜健華とシルクロードアンサンブル 県高校総合文化祭(将棋) 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会	高文連評議会 社団法人全国高等学校文化連盟第1回通常総会	岩国市 宇部養護学校 広瀬高校 下関商業高校(定時制) 中国新聞社山口支社 東京都フロラシオン青山 山口養護学校 宇部西高校
6	13 14~15 15 (下旬)	県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽 マーチングバンド・バトントワリング) 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞)	 中国地区高文連関係者合同会議	下関市民会館 下関市民会館 アクティブやない 島根県
8	6~10 7~11 8 31~9.1	全国高校総合文化祭 第13回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	社団法人全国高等学校文化連盟各専門部会 社団法人全国高等学校文化連盟団体代表者会議	神奈川県 神奈川県 東京都 国立劇場
9	10 ~11月	ひとりオペラ「ペロだしチョンマ」 巡回演劇「宇部芸術座」		宇部中央高校(定時制) 光丘高校
10	26~27 27 ~11月	巡回演劇「劇団のんた」 県高校総合文化祭(演劇) 県高校総合文化祭(囲碁) 巡回演劇「劇団海峡座」		柳井商業高校 山口市総合センター 萩高校 新南陽高校
11	3 8 8 8 (上旬) 15~17 23~24	県高校総合文化祭(放送) 第4回高校生文芸道場中国ブロック大会 山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭(美術・工芸、書道、写真) 第40回中国地区高等学校演劇発表会	 第1回高文連理事長会	ニューメディアプラザ山口 山口市 柳井工業高校 熊毛北高校 山口中央高校 シンフォニア岩国 宇部市渡辺翁記念会館
12	(中旬) 21	平成14年度「高文連会報」発行 第4回高校生文芸道場総合大会		東京都
1	30~31		全国高等学校文化連盟研究大会	富山県
2	4 6~8 (上旬) (下旬)	第11回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	社団法人全国高等学校文化連盟第2回通常総会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都フロラシオン青山 千葉県 山口中央高校 山口中央高校
3	(下旬)	第22回器楽管弦楽スプリングコンサート		山口市
【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(下関第一高校) 展示関係3部門(岩国工業高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(柳井高校) 演劇部門(防府商業高校) 囲碁部門(萩高校) 放送部門(山口農業高校) 将棋部門(宇部高校) 各専門部会 各専門部研修会 主管校において開催予定 部会長校を中心に開催予定 県下各地において開催予定				

平成14年度 山口県高等学校文化連盟会計【予算書】

〔収入の部〕

(単位：円)

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
繰 越 金	4,953,009	3,249,460	1,703,549	
会 費	16,199,000 (内訳) 15,995,000 75,000 129,000	17,208,750 (内訳) 17,011,050 67,500 130,200	△ 1,009,750 (内訳) △ 1,016,050 7,500 △ 1,200	全日制 350円×45,700人 定時制・盲・聾・養 50円×1,500人 学校負担金 100円×1,290学級
補 助 金	5,595,000 (内訳) 1,335,000 300,000 3,960,000	6,080,000 (内訳) 1,570,000 300,000 4,210,000	△ 485,000 (内訳) △ 235,000 0 △ 250,000	県総文祭県補助金(予定額) 下関市補助金(予定額) 全総文祭県補助金(予定額)
調整基金から繰入	0	0	0	
雑 収 入	12,991	12,790	201	利息
合 計	26,760,000	26,551,000	209,000	

〔支出の部〕

区 分	予 算 額	前年度予算額	増減(△減)	摘 要
〔運 営 費〕	1,087,600	759,000	328,600	
事務用品費	(内訳) 220,000	(内訳) 200,000	(内訳) 20,000	事務用品、写真、事務機器維持費等
通 信 費	380,000	300,000	80,000	電話 郵便 運送料等
分 担 金	487,600	259,000	228,600	全国高文連会費 全国高文連賛助会費 中国高文連分担金
〔会 議 費〕	1,900,000	1,881,000	19,000	県内会議 全国会議 事務局旅費 研究大会
〔事 業 費〕	21,528,540	17,066,000	4,462,540	
県 総 文 祭	(内訳) 8,483,540	(内訳) 8,326,000	(内訳) 157,540	総合開会式 各部門大会開催費(別紙)
全 総 文 祭	7,266,000	4,331,000	2,935,000	生徒旅費372万 引率教員旅費268万 運送費85万
自 主 事 業	2,394,000	1,494,000	900,000	11公演
大会補助金	450,000	50,000	400,000	高文連(特殊教育)5万 演劇中国20万 文芸道場20万
専門部会費	1,685,000	1,685,000	0	研修費 通信費
印 刷 費	1,250,000	1,180,000	70,000	高文連集録 高文連会報 県総文祭ポスター 賞状
〔調 整 基 金〕	0	2,500,000	△ 2,500,000	
〔予 備 費〕	2,243,860	4,345,000	△ 2,101,140	事務機器 文芸コンクール
合 計	26,760,000	26,551,000	209,000	

平成14年度 調整基金会計予算書

(単位：円)

前年度末現在高	一般会計から繰入	今年度末残高
13,000,000	0	13,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

平成元年 4 月 1 日改正
平成 2 年 4 月 1 日改正
平成 3 年 4 月 1 日改正
平成 4 年 4 月 1 日改正
平成 6 年 4 月 1 日改正
平成 8 年 4 月 1 日改正
平成 9 年 4 月 1 日改正

第 1 章 総 則

(名称)

第 1 条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第 2 条 本連盟の事務局を山口市宮島町 6 番 1 号山口中央高等学校に置く。

(目的)

第 3 条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事業)

第 4 条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

(組織)

第 5 条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、聾学校及び養護学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第 6 条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送の各部門とする。

第 2 章 役 員

(役員)

第 7 条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|----------------|-----------------|
| (1) 会 長 1 人 | (4) 支部長 7 人 |
| (2) 副会長 若干人 | (5) 専門部会長 13 人 |
| (3) 評議員 95 人以上 | (6) 専門部理事長 13 人 |
| (会長及び副会長を含む。) | (7) 監 事 2 人 |

(役員を選出)

第 8 条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。

(4) 監事は、評議員の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

(1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。

(2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。

(3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。

(4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (2) 企画運営委員会 (3) 理事長会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係わる重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係わる軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第5章 事務局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雑 則

第21条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和62年4月1日から施行する。

山口県高等学校文化連盟 諸規程

[会計規定]

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月11日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。

第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。

第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。

第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。

第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。

第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

＜会費内訳＞ 各高等学校生徒一人当たり1年に (全日制生徒) 350円
(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒) 50円
各学校負担金 (定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)
学級数×100円

第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[事務局規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。

第2条 事務局に次の職員を置く。

(1) 事務局長

(2) 事務局員 ア 総務係

 イ 庶務係

 ウ 会計係

第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。

第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。

第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。

第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。

第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。

第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。

第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

[表彰規定]

昭和62年4月1日制定

昭和62年7月14日改正

平成元年4月1日改正

平成2年4月1日改正

平成6年4月1日改正

平成8年4月1日改正

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

(1) 文化功労賞

(2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

(1) 人格、識見共に優秀と認める者。

(2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県文化連盟加盟校の生徒であって、13部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、13部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規定は、昭和62年4月1日から実施する。

[旅費支給基準]

昭和62年4月1日制定

昭和63年4月25日改正

平成元年4月1日改正

平成11年4月1日改正

平成13年4月1日改正

- 1 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
- 2 県総文の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
ただし、その際の役員日当は1,700円とし、宿泊費は5,000円(打切り)とする。
- 3 全国高校総文祭に関する旅費は、
引率教員は、山口県旅費規程に準じて支給する。
生徒は、[交通費実費(学割・団体割引)+宿泊費(大会規定料金)×2泊]×1/3とする。
※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。(ただし県内は除く)
- 4 専門部会長及び支部長が、県高等学校総合文化祭運営協議会(顧問会議、支部長会議等)を開催する場合は、出席者の在籍する各学校でこれを負担するようお願いする。

平成13年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長 " " " "	西 田 昇 岡 崎 隆 川 本 天 縄 田 紘 三 研 吾		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 宇 部 女 子 高 校
支 部 長 " " " " " " " " " "	岡 崎 天 隆 片 山 淳 齊 藤 忠 壽 西 田 昇 重 藤 晃 村 中 日 出 夫 藤 本 昌 範	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 口 中 央 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 南 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	西 村 靖 昭 村 中 日 出 夫 藤 本 昌 範 林 智 章 平 原 憲 之 章 橋 原 田 部 (休 部) (池 田 通 侃 夫 吉 本 司 末 岡 紀 藤 岡 昌 範 松 岡 史 林 佳 二	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " " " " " " " " " "	村 岡 圭 吾 飯 田 幸 生 有 富 美 子 藤 本 博 途 松 浦 真 実 原 田 江 里 子 (休 部) (平 田 博 英 有 富 美 佃 幸 憲 井 町 頼 信 青 木 幸 子 弘 中 敏 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 防 府 商 業 高 校
監 事 " "	林 佳 二 田 口 勝 海		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 部 庶 務 課 会 計 課	角 中 悦 太 郎 柴 崎 正 比 古 大 黒 昌 子 豊 川 眞 利 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

平成14年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職 名	氏 名	支 部 ・ 専 門 部	所 属 校
会 長 副 会 長 "	山 賀 正 彦 岡 崎 天 隆 川 本 紘 三 水 田 洋 二		山 口 中 央 高 校 岩 国 高 校 下 関 西 高 校 山 口 県 桜ヶ丘 高 校
支 部 長 " " " " "	岡 崎 天 隆 片 山 淳 齊 藤 忠 壽 山 賀 正 彦 重 藤 晃 村 中 日出夫 藤 本 昌 範	岩 国 支 部 柳 井 支 部 徳 山 支 部 山 口 中 央 支 部 宇 部 支 部 下 関 支 部 萩 北 支 部	岩 国 高 校 柳 井 高 校 徳 山 高 校 山 口 中 央 高 校 宇 部 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校
専 門 部 会 長 " " " " " " " " " "	西 村 靖 昭 村 中 日出夫 藤 本 昌 範 城 本 島 越 臣 内 藤 トモコ 橋 田 章 (休 部) 早 川 昭 男 吉 本 侃 司 金 田 重 之 藤 本 昌 範 松 岡 史 重 藤 晃	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 宇 部 高 校
専 門 部 理 事 長 " " " " " " " " " "	村 岡 圭 吾 飯 田 幸 生 有 富 美 子 藤 本 博 途 松 浦 真 実 原 田 江 里 子 (休 部) 平 田 博 英 有 富 由 美 佃 町 幸 憲 井 青 頼 信 弘 中 敏 子 之	演 劇 部 門 器 楽 ・ 管 弦 楽 部 門 合 唱 部 門 吹 奏 楽 部 門 マーチングバンド・ バトントワリング部 門 日 本 音 楽 部 門 吟 詠 剣 詩 舞 部 門 美 術 ・ 工 芸 部 門 書 道 部 門 写 真 部 門 囲 碁 部 門 放 送 部 門 将 棋 部 門	山 口 県 鴻 城 高 校 下 関 南 高 校 萩 高 校 岩 国 商 業 高 校 佐 波 高 校 大 嶺 高 校 (休 部) 岩 国 工 業 高 校 防 府 高 校 光 高 校 萩 高 校 山 口 農 業 高 校 宇 部 高 校
監 事 "	中 村 行 宣 田 口 勝 海		防 府 商 業 高 校 宇 部 商 業 高 校
事 務 局 長 総 務 課 庶 務 課 会 計	角 中 悦 太 郎 柴 崎 正 比 古 新 竹 伸 芳 豊 川 眞 利 子		山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定

向 川 栄 美 作詞

乗 松 美 紀 作曲



1. てをのばせば ほら きっとだれかがささえてくれる
2. よびかければ ほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせ ー ば ほら なかまがいつでもそばにいる きみ
ころをひらけ ば ほら なかまがいつでもまっている きみ



は ひとりじゃない さあ ある きだ そ う
は ひとりじゃない さあ は ばた こ う



ほくらのぶんか を つく る ため ー に
ほくらのぶんか を きず く ため ー に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きっと誰かが支えてくれる

見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きっと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟
「高文連」編集委員

(各 部 門)

合 唱	有 富 美 子	(県 立 萩 高 等 学 校)
マーチングバンド バトントワリング	松 浦 真 実	(県 立 佐 波 高 等 学 校)
器楽・管弦楽	飯 田 幸 生	(県 立 下 関 南 高 等 学 校)
吹 奏 楽	藤 本 博 途	(県 立 岩 国 商 業 高 等 学 校)
演 劇	村 岡 圭 吾	(山 口 県 鴻 城 高 等 学 校)
日 本 音 楽	原 田 江 里 子	(県 立 大 嶺 高 等 学 校)
美 術 ・ 工 芸	平 田 博 英	(県 立 岩 国 工 業 高 等 学 校)
書 道	有 富 由 美	(県 立 防 府 高 等 学 校)
写 真	佃 幸 憲	(県 立 光 高 等 学 校)
囲 碁	井 町 頼 信	(県 立 萩 高 等 学 校)
将 棋	弘 中 敏 之	(県 立 防 府 商 業 高 等 学 校)
放 送	青 木 幸 子	(県 立 山 口 農 業 高 等 学 校)

(事 務 局)

事 務 局 長	角 中 悦 太 郎	(県 立 山 口 中 央 高 等 学 校)
総 務	柴 崎 正 比 古	(")
庶 務	大 黒 昌 子	(")
会 計	豊 川 真 利 子	(")

平成13年度
山口県高等学校文化連盟集録
「 高 文 連 」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町6-1
山口県立山口中央高等学校内
電話 083-932-0818
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／宗内友希（山口中央高校3年）

